



7



アイヌ文様 と土器(縄文・続縄文)文様・



装飾古墳文様との類似性

過去の本州での郷土資料館や博物館及び遺跡(装飾古墳・装飾横穴)などへの取材・調査を通じ、とりわけ注目に値した展示物は縄文時代の土器、土偶であった。

圧巻は土器や土偶に装飾された縄文中期の渦巻文・ワラビテ文とそれらの変形文様である。

他に展示数は少ないが三角文・円文(含む多重円文)を装飾した土器が続く。

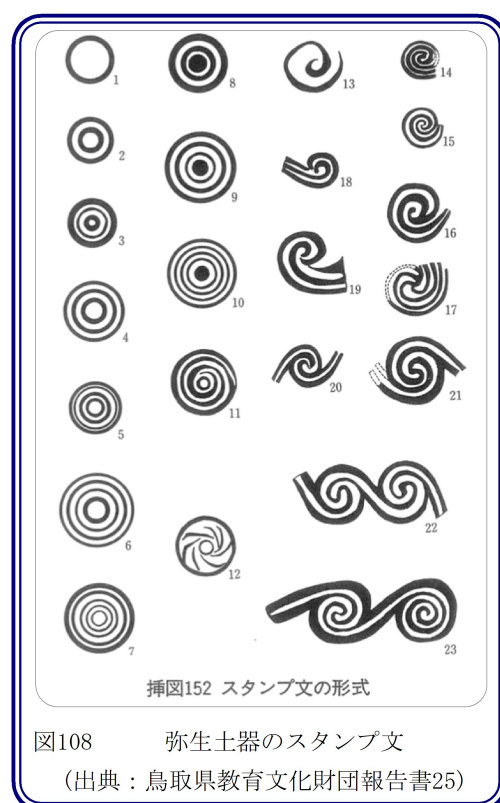
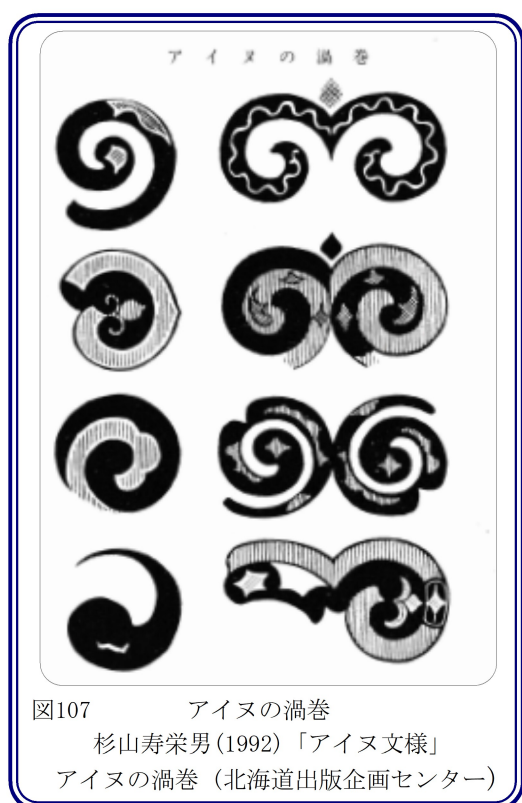
北海道では縄文後期から続縄文時代の土器や土偶などに渦巻文やワラビテ文、円文、三角文が多く装飾されている。

東北南部、関東北部、九州などに代表される

装飾古墳や装飾横穴などで圧倒的に多い文様は、幾何学文と呼ばれる渦巻文・円文・同心円文・三角文・連続三角文・菱型文・直弧文、そしてワラビテ文である。

これらの「土器及び土偶」に施された文様や「装飾古墳及び装飾横穴」に施された文様と極めて類似する文様が、民族衣装や木製品(工芸品)などに施されたアイヌ文様である。

それでは、アイヌ文様の中の基本的文様に位置付けられている「モレウ＝渦巻文」について、口承文芸ではどのような捉え方をしているのだろうか。



◎アイヌ文様(モレウ＝渦巻)◎

大森貝塚(東京都品川区)から出土した土器を
"cord marked pottery(索文土器＝縄文土器)
と命名したのは、日本近代考古学の創始者と
いわれるエドワード・S・モースである。

その後、人類学者で日本人類学会の前身であ
る「じんるいがくのとも」の創立メンバーで
ある坪井正五郎、その弟子の鳥居龍蔵、ベル
ツの弟子であった解剖学者の小金井良精、植
物病理学者の白井光太郎、京都大学に考古学
講座を開設した濱田耕作などが登場するに至
り "日本人の起源(石器時代住民)" について
の議論が白熱した。

坪井正五郎の "コロポックル説" に対して、
小金井良精、白井光太郎、濱田耕作などが "アイヌ説" を主張、鳥居龍蔵も "アイヌ説" に賛同した。

"アイヌ説" の急先鋒であった小金井良精は
國府遺跡(大阪府藤井寺市)から出土の人骨に
ついて次のように解説している。

「要するに此の乾人肢骨は種々の点に於
いて日本人のものと甚だしく違う。その
最重要なるものを挙げれば、尺骨の扁平
なること、大腿骨の龍骨形なること、脛
骨の扁平なること、及び其後面に縦走隆

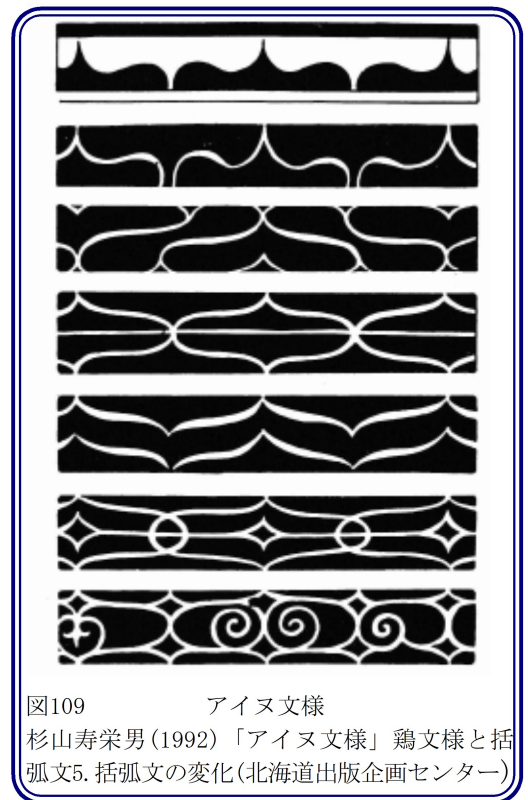


図109 アイヌ文様
杉山寿栄男(1992)「アイヌ文様」鶏文様と括
弧文5. 括弧文の変化(北海道出版企画センター)

起あること、腓骨の非常に強大なること
等である。然るに該諸項は一面には従来
アイヌ式貝塚より出でたる人骨及び現代
アイヌに認めらるゝものと一致もしくは
近似している。」

同じく、 "アイヌ説" 論者であり國府遺跡発
掘に従事した濱田耕作は次のように解説した。

「河内國府石器時代遺跡発掘報告1918年」
の中で遺跡から出土した土器をアイヌ式

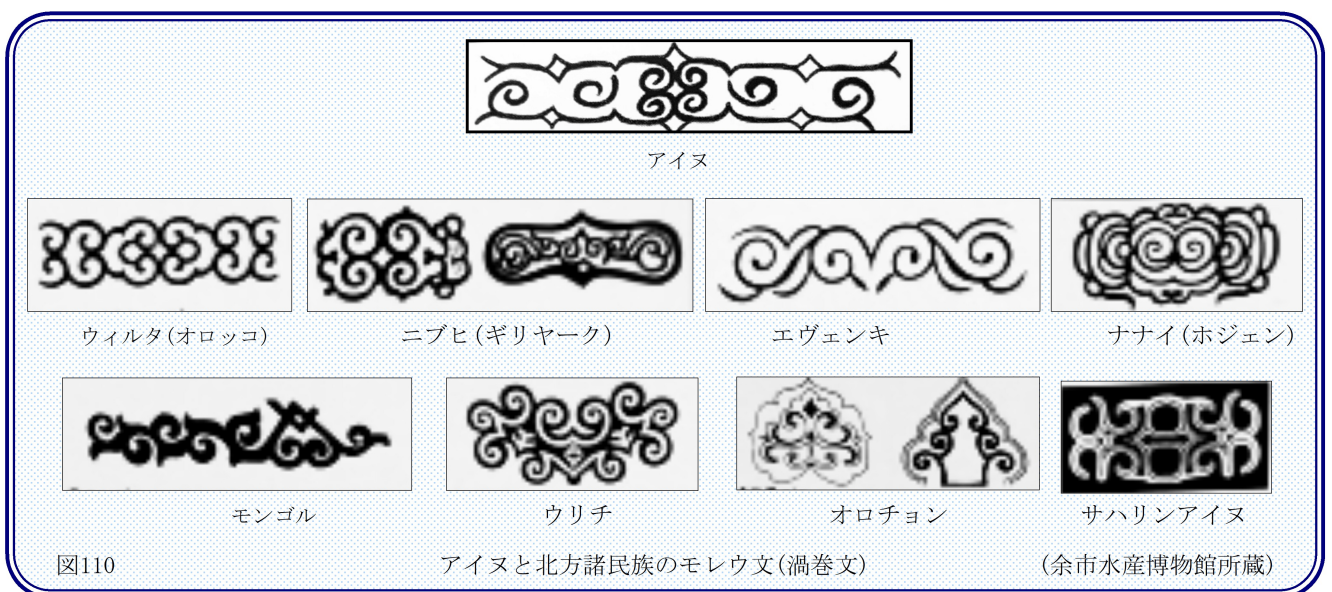


図110 アイヌと北方諸民族のモレウ文(渦巻文) (余市水産博物館所蔵)



図111 〔北海道〕室蘭市輪西町
出土 ・土偶
・縄文時代晩期
・出典 ColBase(トリミングして作成)

図112 〔長野県〕花上寺遺跡
・有孔鏝付土器
・縄文時代中期
・市立岡谷美術考古館所蔵

縄文土器に近似せる土器という意味で

『原始的縄文土器』と名付け、アイヌ式縄文土器と弥生式土器は『原始的縄文土器』に属する。

要之(つまり)、余輩(わたし)は今次の発掘に於いて、人骨の頭部より発見せられたる縄文的土器は、一見アイヌ式縄文土器に近似せるも、未だ純アイヌ式土器に見るが如き曲線的模様の発現無く、之を以て直に彼等の所産とするを要せざるのみならず、同一地点の上層位より弥生式土器の豊富に発見せらるゝ事実より考えて、之を「原始的縄文土器」に属するものとなし、弥生式土器の製作者と同一人種が古き時代に於いて製作せる土器なりと解せんと欲す。

即ち該土器が弥生式土器よりも下層位に発見せらるゝの事実は、其の時代の古き

を推測せしむる一根據なり。」

このように明治期から大正期にかけては「アイヌ式縄文土器」「アイヌ式貝塚」「縄文人骨と現代アイヌ人骨との一致或いはその近似性」など、盛んに縄文人とアイヌ(以下アイヌと云う)との関係性について論評されていたが、いつしかこれらの言葉は死言となり縄文人骨や縄文土器とアイヌとは関連性のないものとされてしまったのである。

現代考古学の定説ではアイヌ文化期を12～13世紀以降としている。

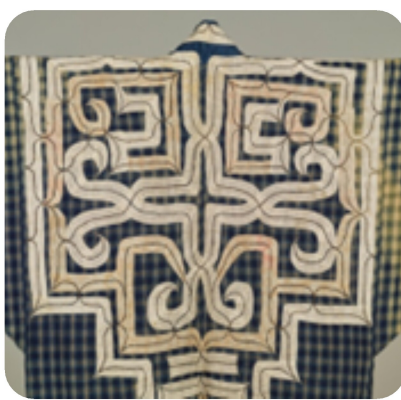
濱田耕作は「純アイヌ式土器に見るが如き曲線的模様」と解説しているが、その曲線模様とは縄文中期に多く見られる渦巻文であろうか、はたまた縄文晩期を代表する大洞式土器(亀ヶ岡式土器)に多様化された複雑な曲線文様のことを指しているのだろうか。

アイヌ文様は主に衣服への刺繍、ゴザなどの編み、木彫工芸品(お盆、食器、熊、矢筒、棒酒篋、小刀など)に施され、細分化すると約23種もしくは7種に分類されている。

アイヌ文様と同系統と考えられる文様がサハリンアイヌ及び大陸の北方諸民族【ウイルト(オロッコ)・ニブヒ(ギリヤーク)・ウリチ・ナナイ(ホジェン)・オロチョン・モンゴル・エヴェンキ】にも存在しており、各民族の基



図113



アイヌの衣



(出典 ColBase)

本形を成す文様は「モレウ文(渦巻文)」である。

アイヌの代表的文様は「アイウシ文(括弧文)2種」と「モレウ文11種」であるという。

これらのアイウシ(棘・魔除)文様とモレウ(渦巻)文様を組み合わせることで様々な幾何学的文様が作りだされ、これらの文様に意味付けがなされている。

根拠は不明であるが棘(刺)を意味するという「アイウシ」には襟首、袖口、裾回り開口部及び死角となる部分からの悪霊の侵入を防ぐ意味としての「魔除け説」に加えて「家系表示説」なるものがあるが、「家系表示説」というよりも文様は家ごとの特徴が表されているようだ。

一方、台風(サイクロン)・渦潮・竜巻などの自然現象や宇宙を構成する銀河系、そして送風機・遠心分離機などの科学的、工学的現象から推測されるように「モレウ(渦巻)」は「パワー(力)」を象徴する文様であり、この文様を装飾するアイヌの衣服は比較的多いと思われる。

約2,000年前の有珠モシリ遺跡(北海道伊達市)から出土の銚頭、また同じく約2,000年前の紅葉山33号遺跡(北海道石狩市)から出土した飾り弓にも「モレウ(渦巻文)」が見事に装飾されている。

獲物を仕留める役目を担う銚頭や弓の性格上、「渦巻」が「パワー」を象徴する代表的文様であることは容易に理解できる。

北海道南西部・虻田地方の遠島家には、家紋を縁取りしたという民族衣装のルウンペ(木綿衣)の複製品が存在する。

天界より天下ったカンナカムイ(雷神)の子孫ともいわれている遠島家の伝承によると、「そのルウンペを着る子孫を保護する」という。



図114 〔山梨県〕酒呑場遺跡
・深鉢形土器
・縄文時代後期
・山梨県考古博物館所蔵

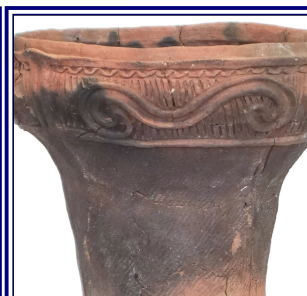


図115 〔茨城県〕東大橋遺跡
・土器
・縄文時代後期
・石岡市教育委員会提供

伝承に因んだそのルウンペにはカンナカムイ(雷神＝オキクルミの別称)を表現した渦巻文様が背面上部の両側と、背面裾部の三個所にレイアウトされている。

始祖伝承と共にオキクルミを表現したその象徴である「モレウ」を家紋としてルウンペに施して代々継承してきた遠島家は、オキクルミと何らかの接点を持つ由緒ある家柄と考えられる。

「モレウ」を施したルウンペの存在から「オキクルミ」と「モレウ」が切っても切り離せない不可分の関係にあると理解される。

文様ではないがオキクルミを象徴するものに「雷鳴(神鳴)」がある。



図116 モレウ文を装飾した飾り弓
石狩市紅葉山33号遺跡 (いしかり砂丘の風資料館所蔵) 国立アイヌ民族博物館にて撮影

☆伝承1☆ 雷鳴・雷音に関する【大傳(ポロ オイナ)】

シネ イキンネ	Shine ikinne	一 つらに	アネ アッカン	ane atkan	細き 綱は
カニ シンタ	kani shinta	金の 神駕	コシキワッキ	Koshihiwatki	唸りを発し
アエウコチポ	aeukochipo	に相乗じて	ルエ アッカン	ruwe atkan	太き？綱は
アフムツムコンア	ahumtumkonna	われらがゆく音	コフムマッキ	kohumumatki	轟々となり渡り、
ツリミムセ	turimimuse	鳴りよどみ、	セムコラチ	semkorachi	それにつれて
コタヌマケ	kotan umake	村々 内壊れ	アユプケ フミ	ayupuke humi	わが 烈しき響きを
モシルマケ	moshir umake	島根も 打壊れ	アシツラレ	ashiturare	われ伴ひ行く。
エカンナユカラ	ekannayukar	むとするが如し。	※「シンタは綱に風があたり、唸りを生ずるが雷鳴となりてひびきわたるなすなり」との注釈あり		
カニ シンタ	kani shinta	金の 神駕の			

口承文芸では、アイヌがオキクルミの神徳を汚し墮落したことでアイヌモシリを去ったオキクルミが、再びアイヌの里を訪れた証としての「雷鳴」について言及している。

口承文藝によると、オキクルミの搭乗機である「シンタ」は雷鳴(雷音)を発する特徴をっており、カンナカムイ(雷神)との呼称はこの雷鳴に由来しているのである。

1970年6月24日、オキクルミカムイの降臨の地にしてアイヌの聖地(霊地)であるハヨピラにおいて、アイヌ民族の伝統的儀式である「熊祭り(イヨマンテ)」を奉納した『オキクルミカムイ1200年祭』のセレモニーがC B A I主催により盛大に挙行された。

全国から集いし100名以上の参列者は、式典の真っ最中に紺碧のハヨピラ上空に突然なり響いた6度の雷鳴に遭遇したのである。

「アイヌ聖典」オイナに幾度となく登場する

「6」なる数字は、神秘の数でありオキクルミ(別称アエオイナカムイ、アイヌラックル)を指し示す聖数なのであった。

渦としての回転やパワー現象を意味する「モレウ」、そして飛行時に発せられる「雷鳴(雷音)」などについて注釈を加えるなら、「モレウ」や「雷音」は、オキクルミを象徴、表現するばかりか、「神の造れる乗り物」と謡われている飛行船「シンタ」をも象徴しているのである。

以下の資料「ユーカラ集Ⅱ」「アイヌ聖典 神傳(カムイ オイナ)・大傳(ポロ オイナ)」は、「モレウ」「オキクルミ」及び「シンタ」と「雷鳴」との関係を示唆している。

☆伝承2☆

【アイヌのユーカラ 神々と人間の物語
第二部 魔人との戦 チュウペツの娘さん】

「チャシの外の庭に並んでいるイナウ(木幣)にも加勢を頼んでおいて、天からおりてきたシンタ(天空船)に自分を任せました。私の乗ったシンタが長い雲を棚引かせ、雷鳴をとどろかせますと、風邪を切って空を駆けめぐります。一つの山、三つの山の上を飛んで駆け抜けて行きますと、大地も裂けるような物音が響きわたりました(後略)。」



図117 [新潟県]道尻手遺跡
・深鉢形土器 ・縄文時代中期 ・津南町教育委員会蔵

☆伝承3☆ 【怪鳥フリー アイヌラックル伝 国造りの神々】

「(前略)やがて、地上の国土を見物に、天上界の神々が下がってこられることになり、その日がやってきました。天上の神々は、神々の乗る浅い舟形の乗り物、シンターに乗って下界に下ってきました。地上に近づくにしたがって、みごとなひびき、金属のふれあう音が、二重にひびき、三重に重なり合って、鳴り渡って来ました・・・・・・。」

☆伝承4☆ 【アイヌ文化誌 金田一京助選集 II】

「オキクルミが去る時に『隣国の国の上へ、我は去り、行くべし』と言って去り、また『アイヌに怒って行くけれども汝ら全体の人へ怒って行くのではないから、それを心に留めよ。汝ら若し、この後とも沙流川の岸へ、イナウを切に上がる時、雷鳴が沖の方に起こらば、そして、一度音があって沙流川の川口に響き、しばらくしてまた、再び沙流川の川口に雷鳴があったら、その二度目の音は我が汝の郷



図118 〔山梨県〕酒呑場遺跡
・土器
・縄文時代後期
・山梨県考古博物館所蔵



図119 〔秋田県〕麻生遺跡
・岩版
・縄文時代晩期
・出典 ColBese(トリミングして作成)

を訪れる音と思うべし』と、
そう言ったそうである。

だから雷の音が、そのように聞こえる折には、村人はあわただしく外へ出てオキクルミの来迎であるといって、伏し拝む習いがあった。」

では、次にアイヌ文様とオキクルミ及びシンタとの関係について見てみよう。

出典 アイヌ文化誌 金田一京助選集 II
金田一京助(1973年：44)

◎アイヌ文様(円文・同心円文

・渦巻文など)◎

円文・多重円文は23種のアイヌ文様には含ま)

☆伝承5☆ 【オキクルミの衣装に刺繍された渦巻文の伝承 ユーカラ集 II】

karkar kunip	針仕事(刺繍)に	moreu utut t	その渦文の間に
attomsama	わき目も振らず	to kani pom moreu	あまたの金色の小渦文が
yayomare	自身をうち込んで	re kamui pom moreu	数々の金色の小渦文が
ikarka wa	ぬいとりをして	uwatore	うちつづいて
inkaran ko	われ見てみると	moreu uturu	渦文のあいだを
inkeapkus	なんとまあ	chiornte kan.	埋めている。
ashkai wa	巧妙に	anramasu	おもしろや
ikichi nankor 's	ものされることだろう	auwesuye	たのしや
karkar kunip	その針仕事(刺繍)のものが	kem rukese	針の後に
tu kamui nish ne	あまたの神雲となり	shikkotesu	目をじいっとつけ
re kamui nish ne	数々の神雲となり	Kem ruwetoko	針のさきへ
yayebumpa	たち昇る、	shikomare Kane	目をそそぎつつ
rupune moreu	大きな渦文が	Keshto ikarkar	毎日刺繍を
chikokaibare	うねうねまわって	karo okai.	事としつつあった。

(出典 ユーカラ集 II 金田一京助 1961：6 8-70)



図120 北海道アイヌ熊祭り画
(北海道大学植物園 北方民族資料室所蔵)

れていないばかりか、現代のアイヌはほぼその文様の存在さえ忘れ去っている。

それらの文様は、本来は基本中の基本の文様であり、子々孫々忘れべからざる大切な文様なのであった。

それらを記録している資料は決して多くはなく、かろうじてその幾つかが今日に伝わっている。

その大変貴重と言わざるをえない円文や同心円文を「絵画」「伝統工芸品・生活必需品」「聖典・口承文芸」「研究論文・研究誌」「イナウしろし」などの中に見出すことが可能である。



図121 儀礼用矢筒 狩猟用矢筒
(市立函館博物館所蔵)

以下にそれらについての概要を述べる。

◎ 絵画【北海道アイヌ熊祭り画】◎

イヨマンテ(熊祭り・クマ送り儀礼)の儀式を描いた「北海道アイヌ熊祭り画」では、祭壇中央に楕円の三重円文状の物体を飾り、その下方に儀式用の二重円文を刻む矢筒(イカヨピコロ)を吊るしている。

三重円文状の物体がイヨマンテ(熊祭り・クマ送り儀礼)の祭壇の中央に飾られているということは、イヨマンテの重要祭具が中央の三重円文状の物体であると判断される。

成獣期には消滅する可能性が高く幼獣時に認められる円文様と三重円文との関係性を調べずしてイヨマンテの本質を解明することは不可能なのである。

三重円文はオキクルミの搭乗機であり、正義の象徴でもあるシンタに他ならないのである。

◎ 伝統工芸品・生活必需品

【飾り矢筒・儀式用矢筒(イカヨピコロ)・

狩猟用矢筒(イカヨプ)】◎

樺太アイヌの儀式用矢筒の中央に真紅の大きな二重円文(10cm大)が装飾されている。

また表面を金属製装飾板で覆う狩猟用矢筒にも数センチメートル大の円文・同心円文が装飾されているが、大変残念なことにはヤマトとの交流から徐々に円文に取って代わって巴文が装飾されるようになる。

これらの円文・同心円文には秘められたる特殊な「力」の存在について言及する伝承が残っている。

◆アイヌ四季◆

「(中略)また半神半人の文化神オキクルミが山狩に行くと、山の端にいる性の悪いクマが、何とかしてオキクルミに飛びかかろうとして、後ろから近寄るのだが、

オキクルミの背負っている矢筒について、キラキラ光る目のような模様がおそろしくて、どうしても近寄ることができないという、伝承などもあって、模様は元々は身を護ってくれる、神々の姿であったことが、おぼろげながらわかってくる。」

出典 アイヌの四季 更科源蔵(1968年)：230

◆歴史と民俗 アイヌ◆

「病魔が着物の裾から侵入しないように網目を、襟元、袖口、裾に描いたかと思うが、これを刺(アイ)ある(ウシ)文様(ノカ)と呼んでいるところからすれば、病魔除けに家の戸口や別れ道に建てる、刺のある木の枝のそれであるかもしれない。(中略)悪性のクマが文化神オキクルミ神(カムイ)を襲おうと近寄るが、矢筒の文様が光って近寄れないという詞曲や昔話があるのは、文様は単なる飾りでないことを物語るもので、着物のせなかに竜神や月の形をつけたり(虻田)、梟の目を描き後ろから忍び寄る魔物を警戒した(幌別)。それらを神(カム)の(イ)目(シキ)と呼んでいる。女性の乳の上にも神の目をつけたし(虻田)、鉢巻きにも神の目や神の姿を縫い込んだ。」

出典 歴史と民俗 アイヌ 更科源蔵(1968年)：85

◎ 伝統工芸品・生活必需品

【イタオマチプ(板綴り舟)とウイマムチプ(献使船)の装飾品】◎

アイヌの風俗、習慣、技術などを詳細に図示した江戸末期の資料に蝦夷生計図説(蝦夷島図説1823年)がある。

その資料に基づいて「イタオマチプ(板綴り舟)」が復元されているが、同舟の舳先部に取付けた左右の「飾り板(ナムシャイタ)」と船尾部の左右の「飾り板(ウムシャイタ)」

には、円文や同心円文と線状の連続三角文が装飾されている。

また、船尾部のとも板(トムシ)の先端部分の裏と表には「モレウ」が装飾されている。

ヤマト(北海道・松前氏)への特別な献使船「ウイマムチプ」にも「イタオマチプ」同様の装飾品(ナムシャイタ、ウムシャイタ、トムシ)が装着され、その装飾品について次のような解説がある。

「ウイマムチプに用いる図の三種のかざりは大切にされており、破壊してもみだりに捨てるようなことはなく大事に保管される。

そうしなければ神の罰を受けると考えられており、殊に恐れ尊ばれている。

罰はアイヌ語でパクという。」

出典 準講造船とアイヌ民俗のイタオマチプについて 岩本才次(2013年)





図123 [鹿児島県] 干迫遺跡
・ 台付皿形土器
・ 縄文時代後期
鹿児島県立埋蔵文化財センター



図124 [新潟県] 芋川原遺跡・彫刻石棒
・ 縄文時代中期
・ 津南町教育委員会蔵



図125 [富山県] 境A遺跡出土
・ 縄文土器深鉢・縄文中期
・ 朝日町教育委員会蔵
・ まいぶんKAN提供画像



図126 [東京都] 入間町城山遺跡・土器
・ 縄文時代中期
・ 調布市郷土博物館蔵



図127 [新潟県] 笹山遺跡
・ 深鉢形土器
・ 縄文時代中期
・ 十日町市博物館蔵

◎イナウシロシ◎

アイヌ語の「シロシ＝イトッパ」なる言葉は日本語の「シルシ＝印」と同義語とされ、種々の物に付ける印である。

アイヌ語の権威者である金田一京助によれば、イトッパ本来の意味は「刻み目」であるという。

イナウに太陽(太陽神)の印を刻む道東地方では、それらの関係について次のように伝承している。

「(中略)この天上の神は男女であって、顔の色の黒くて冴えない月が男神であり、輝くばかり美しい太陽は女神であるとし、太陽を天上を媼とか下天を見守る女神と呼び、月を天上の翁もしくは上天を見守る神翁と呼んだりするが、普通は太陽を明るい太陽、月を暗い太陽とよび、この神々に対してほとんど木幣をあげるといふところがない。

ただ釧路と、十勝地方の一部にもっとも太くて立派な木幣をえらんで、他の神のものよりも高くしてその表面に太陽の形を刻み、裏面に電光系の雷神の形を刻むところがある。

なぜ太陽神にあげるのかという理由について、今はそれを知っている古老もない。ただこの太陽の形を刻む地方では、湖沼に自生する菱の実を重要な食糧としている地帯で、秋の湖にその実が稔と菱祭りをして、そのときに太陽神に木幣が飾られるので、他の湖があっても菱のないところでは、湖の祭りにも太陽神の木幣は飾られることがない。

だとすればこの水草の稔りと太陽神との間に、何か関係があるように思われるのである。」

出典 歴史と民俗 アイヌ 更科源蔵(1968): 31

また河野廣道(1934)の「アイヌのイナウシロシ」(2. シロシ概論 3. シロシの起源)では、「太陽、太陽神、円文、日輪」などの関係について次のように解説する。

◆2. シロシ概論◆

「例えば、東部メナシクルの網走・釧路・亜寒等のアイヌでは、カムイシロシをイナウを捧げる神々のシロシとし、山神には山神のシロシを、海神には海神のシロ



図128 [千葉県] 市川市株木東遺跡・株木東遺跡出土土器
・ 縄文時代中期
・ 市川市考古博物館提供



図129 [長野県] ほうろく屋敷遺跡・蛇体把手付ワイングラス形土器・縄文時代中期
・ 穂高郷土資料館収蔵
・ 安曇野市教育委員会提供

シを、太陽には圓(円)形のシロシを、月神には月神のシロシを用ふる等、字義通りのカムイシロシを用ひ、他面に自己のアイヌシロシ即ちエカシイトッパを用ふる。」

出典 アイヌのイナウシロシ(1)イナウの研究Ⅱ
人類学雑誌49(1)河野廣道(1934年):12-22

◆3. シロシの起源◆

「最も興味深いのはエカシイトッパやシロシの起源である。カムイイトッパとエカシイトッパは、現在ではアイヌ對(対)カムイ(神)の場合にのみ用ひられ、宗教的な存在である。

カムイイトッパが神を表す時は、その神々の形、例えば山神にはその代表者熊のシロシを、海神にはその代表者鯨(シャチ)の形を、太陽神には日輪の形である圓(円)を月神には半月形を刻む等である。」

出典 アイヌのイナウシロシ(1)イナウの研究Ⅱ
人類学雑誌49(1)河野廣道(1934年):12-22

一方、樺太(サハリン)には輪を持つイナウがある。

「(中略) このほか、ニンカリイナウ「耳環のイナウ」という輪を持つイナウがあり、イヌを祭ったり、三月と八月の太陽神の祭りの際に立てる。

図12は模型。



図130 〔北海道〕恵山貝塚
・恵山貝塚壺形土器
・縄文時代
・市立函館博物館所蔵

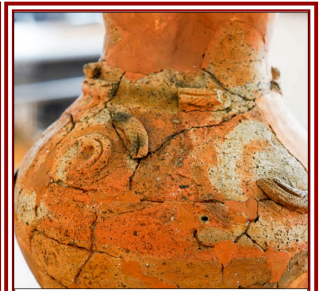


図131 〔北海道〕三沢1遺跡
・双口土器
・縄文時代晩期
・千歳市教育委員会所蔵

輪を持つイナウは樺太島の特色であるので、参考として東海岸白浜(図13)の例も示す。」

出典 花とイナウ 世界の中のアイヌ文化 北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット第4号 今石みぎわ・北原次郎太:
23-24

◎聖典・口承文芸 アイヌ聖典

神傳(カムイオイナ)◎

口承文芸としては「アイヌ聖典」に集録された神傳(カムイ オイナ)がある。

そこでは「日輪の像(かたち)としての二重円文、三重円文がオキクルミの居城であるハヨピラに掲げられて燦然と輝く様子を、また、それらの文様が「神衣に縫いだされて光り輝く様子」が語られている。

カムイ オイナにおける「日輪の像」なる表現は計2箇所、「二重の明光(神光・ひかり)」、

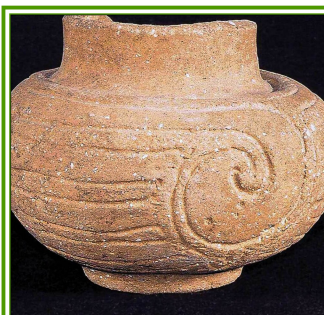


図132 〔香川県〕蟻の首遺跡
・縄文土器・縄文時代後期
・三豊市教育委員会提供



図133 〔高知県〕松ノ木遺跡
・浅鉢・縄文時代後期
・高知県本山町教育委員会提供

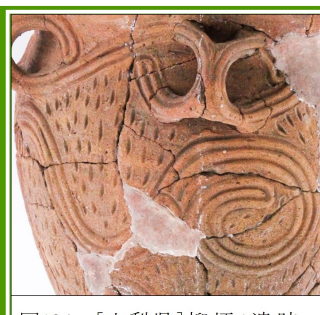


図134 〔山梨県〕柳坪A遺跡
・大型X字把手付土器
・縄文時代中期
・石岡市教育委員会提供
・山梨県考古博物館所蔵



図135 〔岡山市〕百間川原尾島遺跡・彩文土器
・弥生時代後期
・岡山市古代吉備文化センター提供



図136 〔茨城県〕水戸市谷田町出土・土版・縄文時代晩期
・出典 ColBese(トリミングして作成)



図137 〔東京都〕あきる野市上代継字千代原出土・深鉢形土器・縄文時代中期
・出典 ColBese(トリミングして作成)



図138 〔岡山県〕高塚遺跡・流水文銅鐸・弥生時代後期
・岡山県古代吉備文化センター提供



図139 〔兵庫県〕神戸市東灘区渦森台出土・扁平鈕式銅鐸・弥生時代中期
・出典 ColBese(トリミングして作成)

「三重の明光(神光・ひかり)の表現は計4箇所、他に「二重の雲・三重の雲」などと表現されている。

これらの表現は、「モレウ(渦巻文)」同様にオキクルミやシンタ(UFO)を意味しているもので、シンタが雲を引いて飛翔する情景を謡う口承文芸もある。

続いて、代表的「モレウ(渦巻文)」を装飾した古墳、及び「二重・三重の明光」に該当する円文及び同心円文を装飾した古墳の紹介とその図柄について解説する。

◎古墳の装飾文様◎

令和3年度の文化庁の調査によると全国の埋蔵文化財包蔵地数(古墳・横穴墓)は、159,953基とのことである。

その中で古墳内部の石室や石棺、或いは横穴墓の壁面に彩色や浮彫、線刻を施した装飾古墳は約765基(熊本県立装飾古墳館 2024/10現在)で、北は東北・宮城県から南は九州・宮崎

県まで全国的規模の分布である。

地域別に調べると九州が全体の約57%(435基)を占め、以降、関西が約20%(154基)、関東が約13%(101基)、山陰が約7%(57基)、東北他が約6%と続き、熊本県には約3割が集中する。

「熊本県立装飾古墳館 装飾古墳とは」を参考にすると、これらの装飾古墳の文様は次のように分類される。

- ・図形的な幾何学的文様【渦巻文・円文・同心円文(含む二重円文・三重円文)・直弧文・三角文・連続三角文・菱型文・ワラビテ文・双脚輪状文など】
- ・器材器物文様【靫(ユギ=矢筒)・弓矢・盾などの武器武具や舟・家屋など】
- ・人物鳥獣文様【人物・馬・鹿・鶏など】

さらに、古墳の造られた時期・装飾の仕方・装飾の内容などにより装飾古墳は石棺系・石障系・壁画系・横穴系の4種類に大別される。

★石棺系装飾古墳★

4世紀終わり頃から造られ始め、石棺の蓋や身に円文や三角文、或いは直弧文等の文様を浮彫や線刻で表現している。

※石棺の身(蓋を除く本体、くり抜き式と合わせ式がある)

★石障系装飾古墳★

4世紀末頃から5世紀初めにかけて、八代海

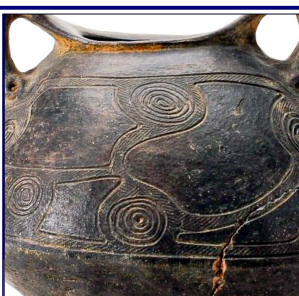


図140 〔埼玉県〕中三谷遺跡・注口土器・縄文時代後期
・埼玉県教育委員会提供



図141 〔岡山県〕長縄手遺跡出土・土器片・弥生時代中期
・岡山県古代吉備文化センター提供

(不知火海)沿岸部で造られ始めた横穴石室に見られる。ほぼ正方形の墓室に円文・同心円文や靱・盾等を浮彫や線刻で表現した石障が立てめぐらされている。5世紀前半頃、宇土半島を經由して熊本市北部に広がる。後に、赤・黄・緑などの色彩がくわえられるようになる。

※石障(横穴式石室の玄室各壁に接して立てめぐらされた板状の石材)

★壁画系装飾古墳★

6世紀に入り、北部九州では壁画系の装飾古墳が数多く造られ始められる。この特徴は横穴石室の壁面に彩色で装飾文様を描く。熊本では6世紀前半頃から円文や連続三角文を石室に描くようになる。

また、武具や人物、馬など、絵画的な装飾も描かれた。

★横穴系装飾古墳(装飾横穴墓)★

6世紀頃から、熊本では多くの装飾を持つ横穴墓が造られる。墓室の中だけでなく、入口付近の壁面にも装飾が描かれる。人物、靱、盾などが浮き彫りで描かれたり、彩色で円文や三角文が描かれている。

専門家が論ずるところの古墳及び装飾古墳の年代特定には、賛成しかねる部分があることをこの場を借りて申し述べるものとする。

本章の内容と関係する幾何学的文様【渦巻文・円文・同心円文(含む二重円文・三重円文)・直弧文・三角文・連続三角文・菱型文・ワラビテ文・双脚輪状文など】の中で、アイヌ文様との類似性が指摘できうる渦巻文・円文・同心円文・三角文・連続三角文を施した古墳に限定すると、全国に約191基が存在する。

内訳は、東北11基【宮城県5基・福島県7基】、関東9基【茨城7基・神奈川2基】、中部1基【長野1基】、北陸3基【福井3基】、近畿3基



図142 [岡山県]長縄手遺跡・土器片・弥生時代中期
・岡山県古代吉備文化センター提供



図143 [東京都]あきる野市上草花出土
・深鉢形土器・縄文時代中期
・出典 ColBese(トリミングして作成)

【大阪3基】、山陽2基【岡山2基】、山陰6基【島根2基・鳥取4基】、九州162基【福岡39基・佐賀5基・長崎1基・大分14基・熊本101基・宮崎2基】である。

幾何学文様を施した古墳の約8割以上が九州に集中する。

しかも6割が熊本、2割が福岡という特異な分布であることを強調せねばならない。

渦巻文様が確認できる古墳は全国に8基しか存在せず、東北・福島県6基、近畿・大阪府2基(現在1基は確認できず)、九州・福岡県1基と極めて少ない。

最多を誇る福島県内には、①中田1号横穴 ②泉崎4号横穴(7基の横穴群) ③清戸迫76号横穴(300基以上の横穴群) ④羽山1号横穴(約20基の横穴群) ⑤館山6号横穴 ⑥福岡横穴が現存する。

一般に装飾古墳の幾何学文様などの特異な図文は、呪術や鎮魂・辟邪【古代中国の霊獣。



図144 [東京都]入間町城山遺跡・土器片・縄文時代中期
・調布市郷土博物館所蔵



図145 [茨城県]滝ノ上遺跡・土器・縄文時代中期
・常陸大宮市教育委員会所蔵



図146 〔北海道〕余市天内山遺跡・後北式土器・縄文時代
・余市水産博物館収蔵

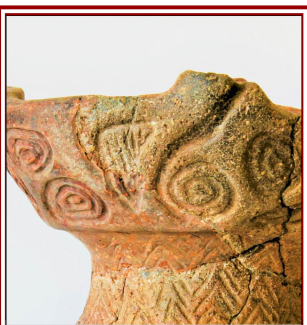


図147 〔愛知県〕芋川遺跡出土
・土器・縄文時代中期
・刈谷市教育委員会提供

二本の角をもつ鹿に似た姿とされ、邪(人に害をなすもの)をしりぞける】という目的で施されてきたと考えられているが、円文や同心円文・渦巻き文などについては宇宙を構成する天体になぞらえるという以下のような解釈もある。

「装飾の文様や絵画に、円文、同心円文、三角文、渦巻文、蕨手文、双脚輪状文、直弧文などの文様や、鏡・弓・靫・靫・盾などの武器・武具、家、鳥、船などとともに厩人などが認められる。円文が鏡や太陽や月や星を、同心円文や渦巻文が太陽などを表していると思われる場合もあり、まれには月を示す蟾蜍(ヒキガエル)と見られるものもある。」

出典 古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ報告書(案)
座長 和田晴吾 文化庁 第12回資料(H26・3・10:1)



図148 〔新潟県〕県東大橋遺跡
・河童形土偶・縄文時代中期
・出典 ColBese(トリミングして作成)



図149 〔山梨県〕柳坪A遺跡
・大型X字把手付土器
・縄文時代中期
・山梨県考古博物館所蔵

専門家は装飾古墳の図柄や図文に対して常識では理解しがたい特にオーパーツ的要素が含まれている資料には、呪術や鎮魂・辟邪で片付けようとする傾向が多々見受けられるが、より芸術的、科学的な視点からの取り組み方が求められるのである。

では特筆すべき渦巻き文様を施した福島県内の泉崎4号横穴、清戸迫76号横穴、羽山1号横穴及び福岡県内の吉武7号墳の装飾絵画について、U F O L O G Y (宇宙科学大系) 的視点からの考察を試みる。

おそらく古墳の被葬者は、一生涯の中の最大の出来事に遭遇した情景を後世の人々へのメッセージとして描いたに違いないと考えられるのであった。

◎東北・福島県◎

☆泉崎4号横穴の図柄の解説(西白川郡泉崎村・

7世紀前半・彩色赤)☆

- ・正面奥壁には、手をつなぐガニマタ状の4名の人物像(男性)と、その左側にドレス(スカート)状の衣装をまとう3名の人物像(女性)を描く。
- ・2名の女性が頭上付近まで供物を捧げる状態を描く。
- ・男性と女性の上部(天井)にはサイズの異なる3個の渦巻文を描く。
- ・左端の男性の下方に土星状の物体を描く。
- ・手を繋ぐ4名の男性の右側には馬上から鹿?を射る狩猟風景を描く。
- ・右側壁には、馬とその左に二個の三角文を組み合わせ、その左に20数個の朱文を描く。
- ・その上部(天井)には大きな渦巻き文を配置し、その中心付近から物体が飛び出て見える情景を描く。
- ・渦巻き文の右側には8個の円文、その付近に数本の水平線を描く。

- ・渦巻き文様と8個の円文との中間付近のさらに上部に遮光式土偶と推測される図柄を描く。
- ・左側壁には、向かって右側に渦巻き文、その中心付近から小物体が飛びだした状況を描く。
- ・その左に人物が騎乗した馬と、それに対峙するように脚を開き両腕を広げた人物を描く。
- ・その左に急減速状態と窺える大きな馬と、その馬と対峙する状態の人物像を描く。
- ・さらに左の少し離れた位置に動物と、その奥に両手を広げた人物を描く。
- ・その動物の左にも判別しがたい動物を描く。
- ・上部(天井)左に渦巻文とその左に二つの三角文を組み合わせた図柄を描く。
- ・入り口付近の天井には、右側に同心円文2個を描く



図150 〔千葉県〕姥山貝塚
・土器残片
・縄文時代中期
・出典 ColBese(トリミングして作成)



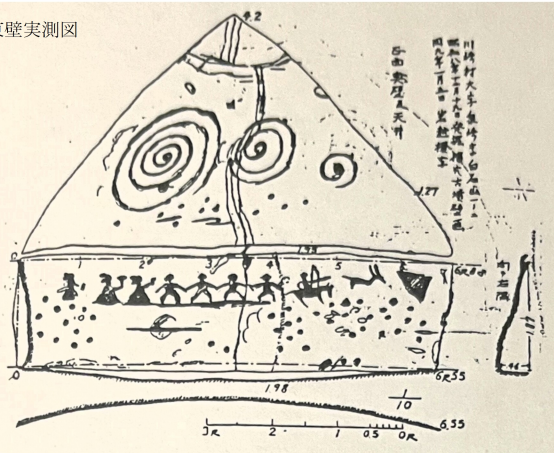
図151 〔青森県〕中居遺跡
・漆塗り注口土器
・縄文時代晩期
・八戸市埋蔵文化財センター
・是川縄文館所蔵

- ・左側に1個の同心円文と3個の円文を描く。

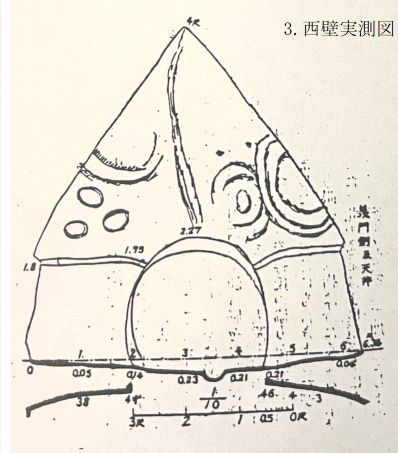
★図柄の解説

- ・口承文芸を参考にする、「渦巻(モレウ)」文様は、オキクルミやその別称のカンナカムイ(雷神)或いはシンタ(飛行船=UFO)の表現である。
- ・奥壁の下方に描かれた土星状の図柄はランディング状態のUFOの側面図である。
- ・奥壁や左右の壁面・天井に描かれたUFO

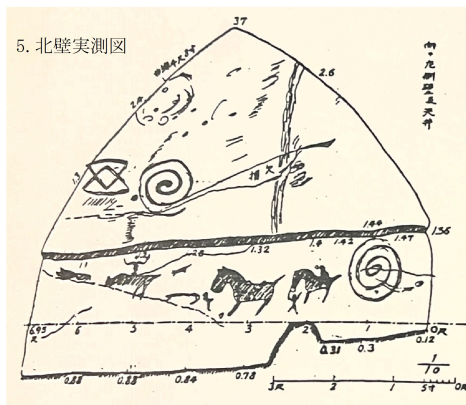
2. 東壁実測図



3. 西壁実測図



5. 北壁実測図



4. 南壁実測図

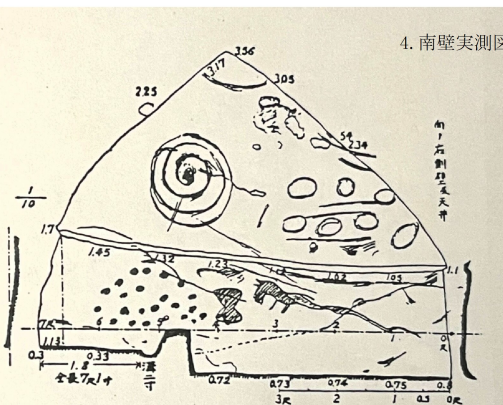


図152

泉崎横穴 発見当初実測図

(泉崎村教育委員会提供)

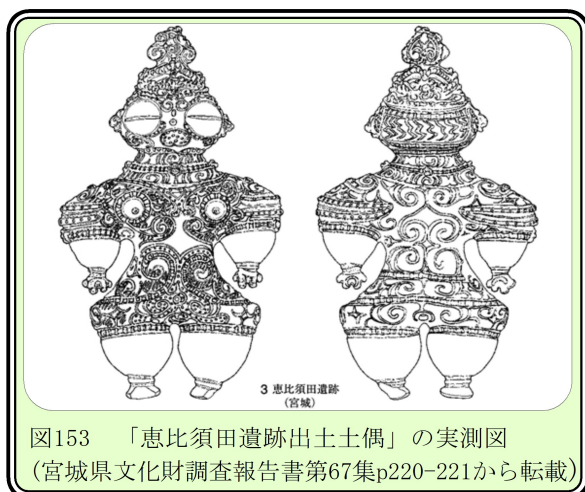


図153 「恵比須田遺跡出土土偶」の実測図
(宮城県文化財調査報告書第67集p220-221から転載)

はホバリング中である。

- 大きさの異なるU F Oは地上の人々との接近の度合いを示す。円文とラインは距離とその飛行状況を表す。
- 3名の女性は、宇宙からの来訪者(救援者)に対して心からの感謝と歓迎を表す献納スタイルをとる。
- 手を繋いだ4名の男性は、ホバリング中のU F Oへの天空へのサイン「歓迎・感謝・友好」を表している。
- 狩猟の状況を描き、彼らが狩猟、採取を生業とする平和の民であることを強調する。
- 左側壁及び右側壁の図柄では、人が両腕を上げ馬の進行を阻み、大きい馬は急減速を余儀なくされるている。
- 大型のU F Oからは、レジスタリング(記録用)U F Oが発射され、ホバリング中以外のU F Oの動きが慌ただしい。

- 装飾が消えたか、意図的に排除されたのかは不明だが、右側面の天井上部に描かれていた遮光器土偶像とおぼしき図柄は初期のスケッチを除き資料には描かれない。

【約3千数百年前(縄文晩期)の“出エジプト記”の時代に地球は宇宙的災害の襲来を受け壊滅的打撃を蒙った。

遮光器土偶はその災害以降製作されることはなく、米国・N A S Aの船外宇宙服は提供されたこの土偶をモデルとしている。

その災害からアイヌを救済したオイナカムイ(オキクルミカムイ)の偉業が、“トッカリショ” “アトカニ”伝承として北海道・室蘭に残る。遮光器土偶と類似する中空土偶がこの地からも出土した。

遮光器土偶は宇宙的災害時の地球脱出用特殊宇宙服を開発したそのモデルになったと推測される。

宇宙へと旅立った人々、或いはその関係者が子孫の危機を憂い救援に訪れた可能性が極めて高い】

- 総評すると、馬で表現された騎馬民族ヤマトが、6世紀頃より本格的に蝦夷(エミシ)への侵略を開始する。

宇宙側はヤマトの侵略を阻止するべく果敢に戦う原住民アイヌに対して救援部隊を派遣、アイヌモシリ(人間の国土)の防衛に幾度となく救援の手を差し伸べた。



図154 [岩手県]高梨遺跡
・遮光器土偶・縄文時代晩期
・出典 ColBese(トリミングして作成)



図155 [茨城県]結城市谷山北遺跡・遮光器土偶・縄文時代晩期・結城市教育委員会蔵



図156 [静岡県]川根本町上長尾夕宮出土・土偶・縄文時代期
・出典ColBese(トリミングして作成)

その人間の行為にアイヌモシリの人々が、深い感謝と歓迎の意を表しているのが泉崎号4墳の装飾壁画の図柄である。

☆清戸迫76号横穴の図柄の解説(双葉郡双葉町・

7世紀中頃の後半・彩色赤)☆

- ・奥壁には、中央やや左よりに八重の渦巻文とその左右に特殊なスタイルの人物像を描く。
- ・右側の大きく描かれた人物像は特殊なヘルメット？を被り、右手を腰に当て、左腕は肩より幾分高く斜め前方に伸ばす。(仮定、人物像は正面を向く)
- ・渦巻文の先がこの人物像の右肩と繋がる。
- ・幾分足を開き気味の下半身は上脚部が膨らみ、下脚部は細く乗馬ズボンスタイルを想起させる。
- ・その人物像の右側に対峙する状態で騎馬像を描くが人物像は小さい。
- ・大きく描かれた馬の尻尾ははね上がり、前脚、後脚共直線で表された脚に角度が付く。
- ・手綱を強く引いたことで生じる顎を引いた馬の頭部の下向き状態を描く。

- ・顎を引き下を向いた馬の頭部もその状態の裏付けである。
- ・渦巻文の下部には鹿や小動物、及び狩猟中の人物を描く。
- ・渦巻文の左側の人物像は右側の人物像より少し小さい。
- ・下半身のスタイルは大きい人物像と同じようではあるが、被っているものに相違が見られ、腕の恰好から推測すると肩を怒らせているようだ。
- ・その左側にも動物がおりイノシシか？狩猟・採取の民であることを強調している。

★図柄の解説

- ・重要ポイントは腰に手を置き、左腕を横斜め前方に伸ばしU F Oと繋がる人物像、そして急減速状態の右側の馬である。
- ・特殊ヘルメットを装着したホバリング中のU F Oと繋がる人物と左側の人物は、U F Oのクルーと考えられ、耐Gスーツを着用しているのか、膝下はタイトである。
- ・右側の馬は、脚の角度から明らかな急減速状態であると同時に、尻尾がはね上がり極度の警戒感と興奮状態に陥っている。



図157

清戸迫横穴壁画実測図

(双葉町教育委員会提供)



図158

羽山1号横穴壁画模式図

(南相馬市教育委員会提供)

- ・ヤマトの侵攻を阻止するUFOとそのクルーが突然出現したと考えられ、ヤマト側の馬と騎手が驚いた状況の描写である。
- ・総評として、シンタ(UFO)とそのクルーは、度重なるヤマトの侵攻に対して、狩猟・採取を生業とする人間国土建設者の救援を目的としてこのエリアに出現した。
左側の人物も肩を怒らせヤマトの侵攻を阻止している。
腰に手を当てるポーズは、「相手を威嚇・拒絶する」ときのポーズとされ、そのしぐさをもって人間の国土(アイヌモシリ)へのヤマトの侵入を拒絶した」図柄である。

☆羽山1号横穴の図柄の解説(原町市中太田・6世紀末～7世紀初頭・赤と白の彩色)☆

- ・装飾は奥壁と左右の側壁・天井部に施す。
- ・側壁には直径約3cmの点文が二列に帯状に並ぶ。
- ・左側壁では上下に13個、右側壁では上側に10個とその下側に12個の点文が並ぶ。

- ・天井には直径3～5cmの点文が赤を主体に並び、その間に白を配し、赤い点文の直径は約10cm。
- ・奥壁の絵画は左右に構図が分かれる。
- ・右側には地面？を描き、その上に6重の渦巻文を並置状態に2個描く。
2個は少し間隔を空け、5本のラインで双方を繋げる。
- ・渦巻文の左には、分厚い大きな長方形の物体を描く。
- ・その左に両腕を水平に上げた人物像と、下方に三角形の頭巾？を被り腕を斜めに下げた人物像を描く。
- ・左側には、アンダーラインを描きその上部に右から野生動物、両腕を水平に上げ脚を大きく開いた人物像、馬、三角形の頭巾(戦闘用兜)？を被り腕を斜めに下げた人物像、アンダーラインまで届く太い縦のジグザグ文様、さらに野生動物を描く。

★図柄の解説

- ・左右に二種類の図柄が描かれている。

- ・右側の図柄は、空間に浮かぶエネルギー稼働中の2基のシンタ(U F O)の移動状況か？
- ・その左側に横穴墓の羨道を塞ぐ巨石を想起させる長形状の物体が描かれている。
- ・渦巻文としてのU F Oは洞窟へ格納中か、或いはスクランブルでパワー始動まもない状態。
- ・5本のラインは格納庫内でのU F Oの移動状態を表し、格納庫内であればU F Oは1機。
- ・馬は侵略者ヤマトの象徴(竹原古墳参照)で、腕を水平に上げた2名の原住民が古墳時代の三角形の兜を着用したヤマト2名に対峙している。
- ・ジグザグの縦線は原住民とヤマトとの境界線、清戸迫76号横穴同様ヤマトの侵入を阻んでいる。
- ・総評として、ジグザグの縦線はヤマトと蝦夷(エミシ)との古代の境界線(関東と奥州)と推察された。

“勿来関(なこそ)の関”を越境したヤマトに対して、格納中のU F Oにスクランブルが発動され、人間国土(アイヌモシリ)への



図159 [北海道]厚真町豊里1遺跡・土器
・擦文文化後期
・厚真町教育委員会所蔵

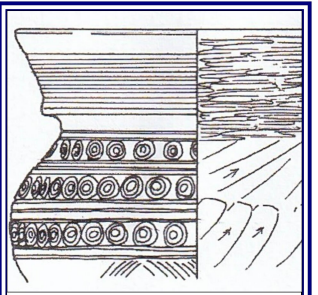


図160 [鳥取県]秋里遺跡
・土器・弥生時代
・出典：鳥取県教育文化財団報告書25

侵入を強く拒絶した状態の図柄である。

※なこそは古代から歌枕となっている「奥州三関」の一つであり、一般的には古代の常陸国と陸奥国の海沿いの境にあった東海道の関所とされているが所在地に諸説ある。

835年の大政官符ではその時から400年前に置かれたという。

「なこそ」とは、古語における「禁止」の意味と両面接辞『な〜そ』に、『来(ク)』(力行変格活用)の未然形「来(こ)がはさまれた「な来そ」に由来[+2]する。

現代語では「来るな」という意味がある。(wikipedia・勿来関を引用)

泉崎4号横穴、清戸迫76号横穴、羽山1号横穴



図161 五郎山古墳「五郎山古墳奥壁画壁画補色」(筑紫野市歴史博物館写真提供)



図162 [鳥取県]中秋里遺跡
・土器・弥生時代後期
・鳥取県埋蔵文化財センター
所蔵

図163 [青森県]中居遺跡
・皿形土器・縄文時代晩期
・八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館所蔵

の装飾壁画の図柄からは、オキクルミが教導した“アイヌ・ネノ・アン・アイヌ(人間らしい人間)”に象徴されたアイヌモシリに武力侵攻したヤマトに対して、それを阻止、撃退すべく宇宙側がシンタ(UFO)を派遣、または緊急時に備えて駐留している。

献納は、その救援活動の人間的行為に対する集団での感謝と歓迎の証である。

これらの図柄から、6世紀末頃より開始されたヤマトの東北エミシへの本格的武力侵攻の歴史が明らかとなる。

県内には他に5重の渦巻文と大きな馬・三角文を線刻した館山古墳群第6号横穴(いわき市植田町館山)及び彩色の渦巻文を描く福岡横穴(相馬郡小高町福岡)が存在する。

また渦巻文を装飾してはいないが、彩色(赤・白)で三段に構成された見事な連続三角文を奥壁と右側面に装飾した中田1号横穴(いわき市平沼内中田も存在)、連続三角文を線刻した岩井迫4号横穴(双葉郡双葉町岩井迫ある)なども存在する。

一方、泉崎4号横穴及び清戸迫76号横穴と約1,000km以上もの距離を隔てた五郎山古墳(福岡県筑紫野市)との壁画に共通的要素が認められる。

五郎山古墳の図柄からも泉崎・清戸迫同様にヤマトの原住民側への侵攻に対して宇宙側が救援に赴き、原住民がその行為に感謝と献納を捧げている情景が描かれている。

大方の見方では五郎山古墳の年代を6世紀後半と見ており、ヤマトの九州への本格的侵攻がこの時期に開始されたと推測される。

その九州にも貴重なモレウ(渦巻文)を施した古墳が存在する。

◎九州・福岡県◎

☆吉武K7号墳の図柄の解説☆(福岡市西区大字

金武字吉武・6世紀前半の円墳・赤の彩色)

・福岡市の西部にある金武古墳群中(145基)もつ

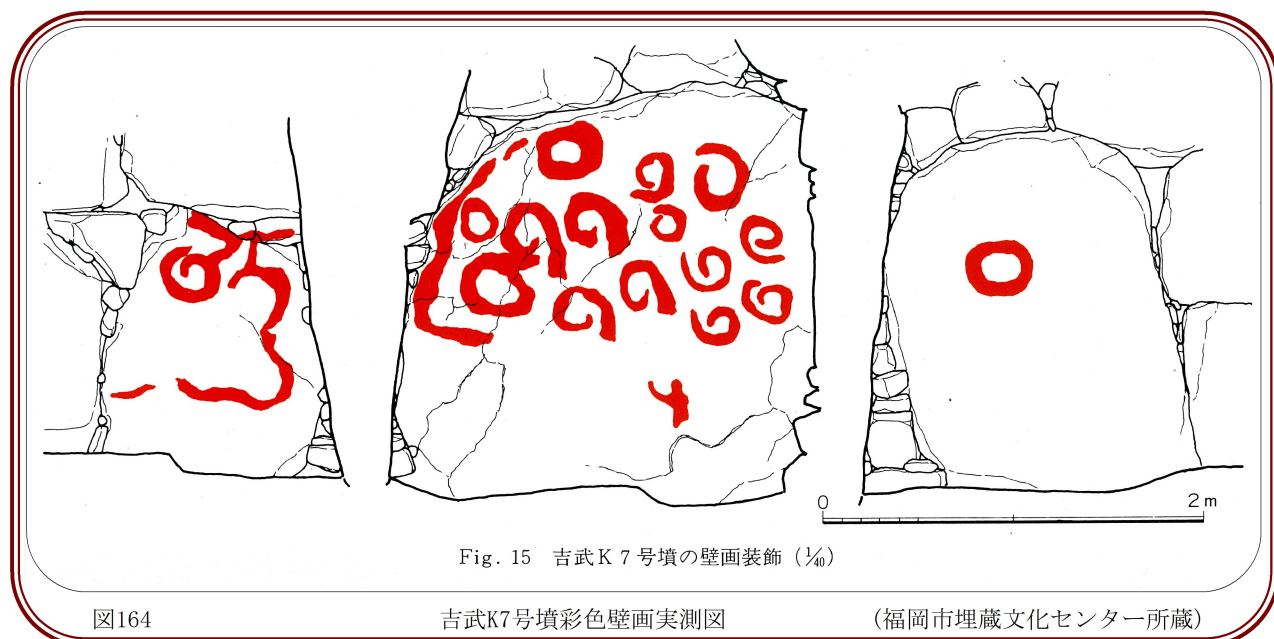


Fig. 15 吉武K7号墳の壁画装飾(1/40)

図164

吉武K7号墳彩色壁画実測図

(福岡市埋蔵文化センター所蔵)

とも東端に位置した12基(現存9基)の円墳からなる吉武K群の1つ。

- ・装飾は玄室の奥壁と左右の側壁に描く。
- ・奥壁には、壁面の上段に11個の渦巻文(左巻8個・右巻3個)と壁面の左側に大小3個の円文を描き、左端にL字型の帯状曲線を描く。
- ・奥壁下方には片腕を斜め上方に挙げる人物像を描く。
- ・右側壁には、中央やや左上段にオーバル状の円文を描く。
- ・左側壁には、長い逆L字型の帯状曲線を描き、その左上部に別の帯状曲線と繋がる左巻の渦巻文を描く。

★図柄の解説

- ・下部の人物の腕の挙げ方から、渦巻文と円文として描かれた計14機のシンタ(U F O)を歓迎している。
- ・装飾が剥離したのか、本来は人物に向って右側にも斜め上方に挙げた腕が描かれていたと推測される。
- ・宇宙とのコンタクトの図柄であることを熟考すると、この人物は高貴な人物である可能性が高い。
- ・その視点から、①宇宙とのコンタクト ②6世紀前半 ③福岡県(筑前)をキーワードに該当する人物を捜したところ2名が浮上した。
- ・一人は、石人・石馬文化に象徴される正義の政治の遂行者として、その石人の全身に

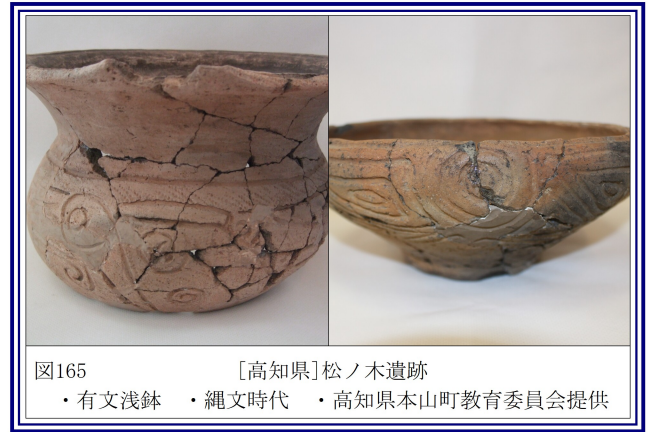


図165 [高知県] 松ノ木遺跡
・有文浅鉢 ・縄文時代 ・高知県本山町教育委員会提供

同心円文(シンタ＝U F O)を刻んだ筑紫君磐井。

もう一人は磐井の子供の葛子である。

- ・古文献によると、ヤマトとの戦争に敗北、領地の※一部を割譲したと記録された“糟谷の屯倉”を含む福岡県(筑前)の北部一帯の統治者は葛子である。

地理的にも吉武7号墳と葛子との関係性が指摘でき、古墳に描かれた人物は葛子或いはその血縁者であったとの見方ができる。

※通常、戦争の敗北者は領地を没収される。一部の割譲は完全なる敗北者ではない。

福岡市内には吉武古墳群から5km圏内にもう1基の装飾古墳である浦江1号墳(福岡市西区大字金武塚原・6世紀後半・多数の赤の彩色)が存在するが、説明では渦巻文とされているが見た目には3個のワラビテ文であると判断でき、それ以外の文様は全体に不鮮明に付きここでは紹介のみに留める。

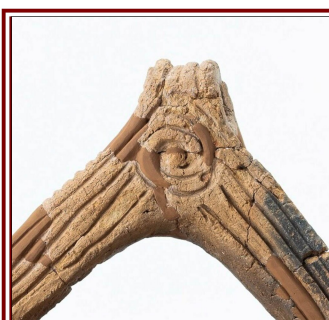


図166 [神奈川県] 生麦八萬前遺跡・釣手土器・縄文時代中期
・調布市郷土博物館所蔵・提供

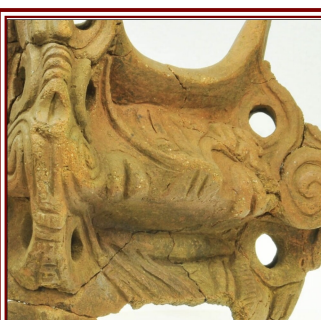


図167 [東京都] 入間町城山遺跡・土器片・縄文時代中期
・調布市郷土博物館所蔵・提供



図168 [岡山県] 長縄手遺跡
・土器片・弥生時代中期
・岡山県古代吉備文化センター提供

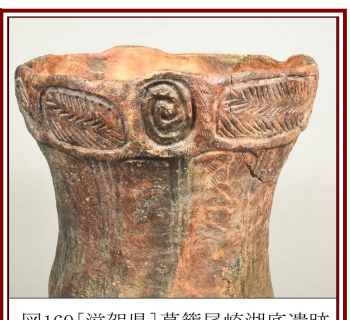
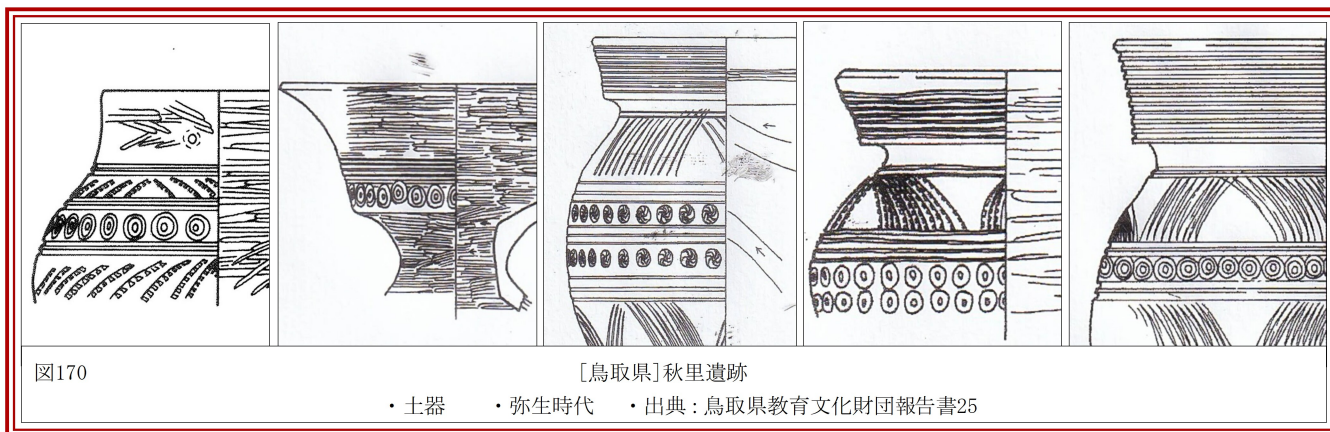


図169 [滋賀県] 葛籠尾崎湖底遺跡・湖成鉄付着土器・縄文時代中期
・長浜城歴史博物館提供
・葛籠尾崎湖底遺跡資料館所蔵



装飾古墳が他の地域を圧倒するが如く九州に多く点在するのは既に述べたが、文様は幾何学文様の中でも「円文」「同心円文」「連続三角文」などが特徴的に多く見受けられる。

また「円文」「同心円文」と「直弧文」の組み合わせ及び直弧文を単独で施す古墳もある。

これらの文様を施す古墳・横穴が、東北(宮城・福島)、関東(茨城)、九州(福岡・熊本)に集中的に存在するのは何故なのだろうか？

次に一部重複するが、幾何学文【円文(含む点文)、同心円文、渦巻文、三角文など】を施している各地域の代表的古墳・横穴を紹介する。

◎東北(宮城県)◎

☆山畑横穴群☆〔6号・10号・15号 大崎市三本木蟻袋山畑 6世紀末～9世紀〕

- ・日本最北の装飾古墳。
- ・6号横穴 朱線のみ、円文なし。

・10号横穴 奥壁に2段に点を中心に同心円文を描く。奥壁の下段に4個、上段に千鳥状に3個と多数の朱文。左側壁では2個の同心円文と天井にも多数の朱文を描く。

・15号横穴 奥壁に2本の水平朱線、縦(中心)の朱線で分けして天井部の左側に2個、右側に1個点を中心に円文を描く。朱文なし。

☆矢本横穴群☆〔28号 東松島市矢本上沢目7世紀中頃以前?〕

・同心円文を描く、ヤマトの東北侵攻の一貫として赤井官営遺跡を形成した移民の墓域として利用されたが、本横穴はそれ以前に造営されたと推定された。

☆愛宕山横穴墓群☆(C地区1号 仙台市太白区4丁目 7世紀後半～8世紀前半)

・奥壁上部に2段で円文を描く。上段4個、下段3個、奥壁の石が割れていなければ倍以上の円文が描かれていたと推定された。下部に十字を施した大きな円文を描く。

◎東北(福島県)◎

☆泉崎横穴群☆〔4号 西白河郡泉崎村 7世紀前半〕

・奥壁・左右の側壁各天井に複数の渦巻文と奥壁下部に土星状の物体(UFO)、各天井にオーバル状の円文を描く。

☆清戸迫横穴群☆〔76号 双葉郡双葉町字新山 7世紀中頃の後半〕

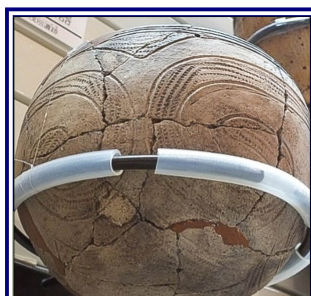


図171 [北海道]北斗市茂別遺跡
・恵山式土器・縄文時代晩期
・北斗市出土

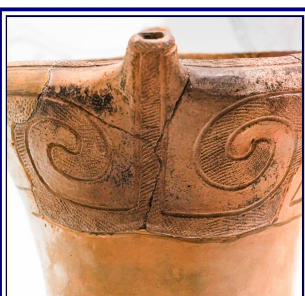


図172 [熊本県]阿蘇郡波野村・小園豆乳牛首遺跡
・中津式土器・縄文時代後期
・熊本博物館所蔵

- ・8重の渦巻文と2名の人物(クルー)を描く。

☆羽山横穴群☆〔1号 原町市中太田羽山 6世紀末～7世紀初頭〕

- ・奥壁に 6重の渦巻文2個或いは移動中の渦巻文1個?を描く。
- ・右側壁に上側10個と下側12個の点文と左側壁では上下13個の点文を描く。
- ・両側壁の点文は直径3cm。天井部にも直径3～5cm程度の赤と白の点文。赤の大きさは約10cm前後。

☆中田横穴群☆〔1号 いわき市平沼内字中田 6世紀後半〕

- ・装飾は玄室(後室)奥壁と左右の側壁に施し一辺約40cmの東北では珍しい巨大な連続三角文を三段に配置。玄門の上部にも描く。
- ・三角形の彩色は赤色と白色で上段は逆位、中段と下段は正位に描く。

◎関東(茨城県)◎

☆虎塚古墳の図柄の解説☆〔約6基の虎塚古墳群の主墳 ひたちなか市中根 7世紀初頭〕

- ・玄室奥壁、左右側壁に彩色(赤・白)。奥壁最上部に連続三角文と若干間隔を空けて2個



図173 〔北海道〕後藤遺跡
・後北C₁式土器・続縄文時代
・江別市郷土資料館所蔵



図174 〔北海道〕坊主山遺跡
・後北C₁式土器・続縄文時代
・江別市郷土資料館所蔵

の大きな同心円文(二重円文)を描く。

- ・その上に頂点を結合させた2個の三角形を描く。
- ・右側壁の最上部に連続三角文とその下に横倒し状態のS字状文様を描く(九州隼人の紋章に酷似)
- ・左側壁の右最上部にも連続三角文とその下に一列に並ぶ太陽をイメージする9個の円文を描く。具象的文様である太刀・盾・靱他を描く。

★図柄の解説

- ・同古墳では円文・同心円文と三角文・連続三角文について述べる。
- ・円文や同心円文がシンタ(UFO)を象徴し

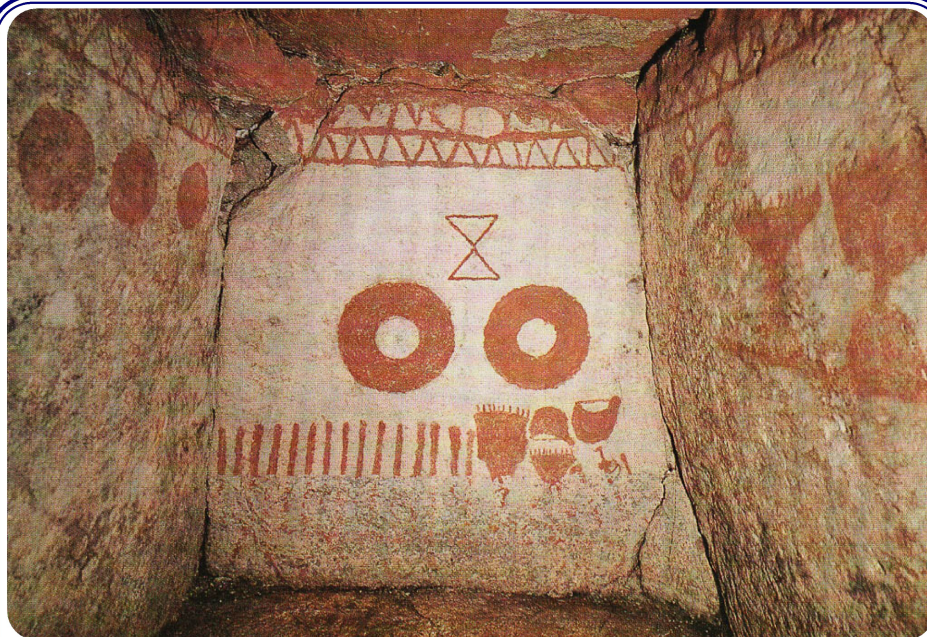


図175

虎塚古墳石室壁画

(ひたちなか市教育委員会所蔵)

☆九州の古墳と茨城・福島の前古墳との類似性☆

菊池川流域の装飾古墳の図文と東日本・茨城県の前古墳の虎塚古墳やかんぶり横穴群との図文(円文・三角文・菱型文)の類似性が指摘されており、彩色と線刻の併用の描き方に至っては熊本県で35基、福岡県で5基、大分県で1基が確認されている。

泉崎古墳に代表される福島県に集中して描かれた「渦巻文」と福岡県・吉武7号墳に描かれた「渦巻文」との類似性。

虎塚古墳が立地する中丸川流域の笠谷古墳群の第6号墳からはイモ貝装馬具が出土した。

茨城県内からは4例の出土が報告され、イモ貝装馬具は九州、特に福岡県で多く出土し、福島県・いわき市の太平洋側からも集中して出土している。

他に九州と茨城県の類似性として骨鏃と埋葬施設などがある。

ていることは既に解説した。

となれば、左側壁の9個の赤色円文はUFOであり、宇宙側がこの地を訪れた情景を描いている。

- ・当然の如く奥壁の同心円文2個もUFOだが、問題となるのは、その上に描かれた三角文である。
- ・そこで三角や三角形が何を意味し、何を象徴するのかを調べて見た。

1. 古来より三角は山や大地・国土を意味し、現在ではその関連用語に三角測量・三角点などがある。
2. 三点設置は安定を意味する。
3. 主に子供は太陽の周囲に三角形を描く。
4. 太陽の周囲に三角形状を描く国旗(アンテグア・バーブダ、ナミビア共和国)がある。
5. 三角は古代より神聖視されたモチーフ。
6. 燃えさかる火は三角形で表現される。

以上、三角形は山・大地・国土を意味するものと、火・太陽光に関連する光・エネルギー・パワーの意味合いがある。

虎塚古墳に描かれた三角文からは、後者の光・エネルギー・パワーを象徴する印象を強く受ける。

例えば、星間物質として宇宙空間に存在するものに「プロトン化水素分子」があり、形状は三角形を成している。

奥壁や両側壁上部の連続三角文は、古墳内部を含む空間自体が特殊なエネルギーで充満していることを意味しており、地球物理学では理解しがたい重力を超越した飛行(超高速・急発進・急停止・鋭角ターンなど)を可能とするUFOの特殊動力と関係しているようだ。

虎塚古墳の被葬者はそれらを理解したうえで描かせたに違いない。

※プロトン化水素分子(3個の水素原子核と2個の電子からなる1個の陽イオン。正三角形の形状を持ち化学組成はH₃⁺。

(株)建設研究所の会員須股孝信(1993)は「畿内の遺構配置にみる古代の土木技術(その1)ー都市計画基本線の存在ー」の要旨において次のように解説する。

「古代の前方後円墳は、その形状からみて幾何学と高度な施工技術によって築造された土木構造物であり、その技術と同



図176 [北海道]余市天内山遺跡・後北式土器・続縄文時代・余市水産博物館収蔵



図177 [東京都]入間町城山遺跡・土器・縄文中期・調布市郷土博物館所蔵

レベルの測量技術も古墳時代に存在したと考えられる。それらを裏付ける事象として、古代の著名遺跡や古墳を結ぶ線分には正しく東西・南北を指すもの、それらの方位に対して30°、60°の角度を振った方位を指すものの事例が多い。

本稿は、それらの事象の中から同一子午線上に置かれた陵と都営の一例を示し、古代の都営に配置にみられる幾何学的な特性から、それらの方位あるいは角度が用いられた理由を考察した。

結果では、30°、60°角をもつ直角三角形の相似特性を利用した測量行為であったと結論するに至り、点在する古代の著名遺跡や古墳の一相互の関係から、古代の畿内に東西・南北の直交座標軸が設定され、この座標軸を基準にした都市計画基本線ともいえる雄大な計画戦の存在を提唱し、座標軸設定の方法を明らかにした。」

出典 土木史研究 第13号 1993年6月 自由投稿論文

この解説からは三角形と大地・国土との関連性が指摘される。

☆船玉古墳☆〔筑西市船玉 6世紀末～7世紀初頭〕

玄室奥壁と西壁に紅白の顔料を用いて円文・武具・舟などを描く。現在は剥離がひどく絵柄の判別は困難。

☆太子唐櫃(カロウド)古墳☆〔通称：太子古墳 かすみがうら市安食 7世紀前半〕

玄室奥壁と両側壁に朱文と円文を描く。現在はほとんどが滅失。

☆十王前横穴群☆〔2号 通称：かんぶり穴 日立市十王町伊師 7世紀後半〕

玄室奥壁と左右側壁に線刻彩色。三角文・



図178 〔東京都〕あきる野市中高瀬出土・土製耳飾・縄文時代晩期・出典ColBese(トリミングして作成)



図179 〔東京都〕入間町城山遺跡・土器・縄文時代中期・調布市郷土博物館所蔵

連続三角文・菱型文他を描く。

☆十王前横穴群☆〔11号 通称：かんぶり穴 日立市十王町伊師 7世紀後半〕

玄室奥壁と左右側壁に線刻彩色。連続三角文・小円文・靱(矢を入れる道具)を描く。

☆十王前横穴群☆〔14号 日立市十王町伊師 7世紀後半〕

玄室右側壁に線刻彩色。三角文・菱型文を描く。

☆花園古墳群☆〔2号墳 桜川市東桜川1丁目 7世紀初頭〕

玄室奥壁と左右側壁に彩色。円文・朱文・靱他を描く。

◎九州(福岡県)◎

☆石人山古墳の図柄の解説☆〔前方後円墳

八女郡広川町 一條字人形原 5世紀前半～中頃〕

・横穴式石室に安置された家形石棺の外面に装飾(浮彫線刻)を描く。

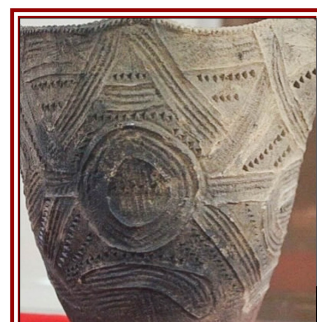


図180 〔北海道〕余市天内山遺跡・後北式土器・続縄文時代・余市水産博物館収蔵

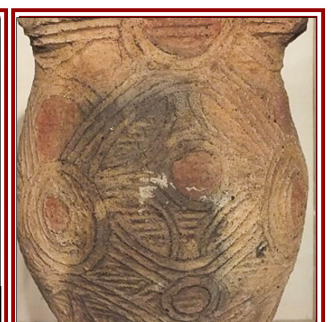


図181 〔北海道〕江別市 萩ヶ岡遺跡・後北C式土器・続縄文時代・江別市郷土資料館所蔵



図182 石人山古墳
石人と妻入家形横口式石棺

- ・家形石棺の蓋の三角部分(屋根)の下部に5個の直弧文、その上部に5個の同心円文(重圏文)を配し、蓋の前面には朱色を施す。
- ・石棺の前に武装石人が立つ、現在は一体だが石人周囲の残存破片の状況から石人数体の存在が考えられている。
- ・石人の表面には微妙に同心円文が認められ、広川町古墳公園資料館の裏手には武装石人のレプリカが置かれ、石人の表裏に複数の同心円文(二重円)と三角文が装飾されている。
- ・石人山古墳は筑紫君磐井の祖父の墓と推定されている。

★図柄の解説

- ・5個の同心円文としてのシンタ(UFO)を描いているが、代表的な例としてUFOの描き方には渦巻文・円文・二重円文・三重円文などの描き方がある。
- ・これらの描き方にはUFOを真上から見た平面図である投影図的技法が採用されていると考えられ、円、二重・三重としての描き方はUFOのタイプ(機種)の相違によるものである。
- ・また直弧文は、UFOの稼働状態においてその周囲に発生する特殊な力場(フォー

スフィールド)を表現したと考えられ、動力の稼働直前の状態か、或いは動力の停止寸前かのどちらかの状態を表現した平面図であるとの見方ができる。

- ・石人山古墳の石棺や石人などの図柄から、既に磐井の祖父の時代より宇宙文化が流入していたことが明らかとなってくる。
- ・石人山古墳と谷を挟み隣接する位置に八女古墳群を構成する円墳の弘化谷古墳〔八女郡広川町大字広川字弘化谷・6世紀中頃〕がある。
- ・石室内部の石屋型(遺体安置施設)の奥壁や側壁には、彩色(赤・緑)された円文・同心円文・三角文・双脚輪状文・靱が描かれている。
- ・九州では古墳5基の内部に配置された石屋型に15個の双脚輪状文が描かれ、本州では約57個の形象埴輪に双脚輪状文が認められる。

☆日岡古墳☆〔前方後円墳 うきは市吉井町 6世紀前半〕

- ・若宮八幡神社の境内にあり、奥壁には彩色(赤・白・緑)された6個の同心円文・ワラビテ文・三角文を描く。
- ・周囲の壁にも武具・船・馬・獣を描く。

★図柄の解説

- ・二重円文3個と三重円文3個で機種の異なる6基のU F Oを表現している。
- ・上部の三角文は、U F Oの動力源に必要な人類には未知の空間エネルギーを表す。
- ・ワラビテ文は、動力装置から発生した特殊エネルギーを表す。
- ・6機のU F Oの6はオキクルミの聖数であるから、日岡古墳の被葬者の元にオキクルミが来訪した可能性が指摘される。
- ・この壁画では各U F Oの大きさが全て微妙に異なっており、遠近法が採用されている。

◎九州(熊本県)◎

☆チプサン古墳の図柄の解説☆〔前方後円墳 山鹿市城字 西福寺 古墳時代後期(6世紀前半頃?)〕

- ・石室奥に組み立てられた家形石棺の奥壁と左右の側壁に彩色(赤・白・黒)を施す。
- ・奥壁正面の石板4枚(1枚欠損)には三角文・菱型文が施され、奥壁の中央部には黒点のある白色円文(楕円形)2個を描く。
- ・左側壁にも菱型文とその菱型文の中に同心円文を描き、その斜め下方にも円文を描く。
- ・チプサンとの名称は、奥壁正面に描かれた2個の円文を乳房に見立てるとする「乳の神様信仰」に由来し、「チブサ」から「チプサン」へと転訛したという。
- ・しかし、現在は確認できないが初期の模写(イラスト)では「チブサ」の由来となった奥壁正面の2個の円文上側に2個の円文(黒地に赤の縁取り)が描かれ、4個の円文が正方形を成している。
- ・現在は上側の2個の円文は滅失している。
- ・初期の模写の存在から「乳の神様信仰」に由来した「チブサ説」は否定される。
- ・全国的に意味不明の「難解な漢字の地名」や「カタカナ地名」が多数存在するのは地

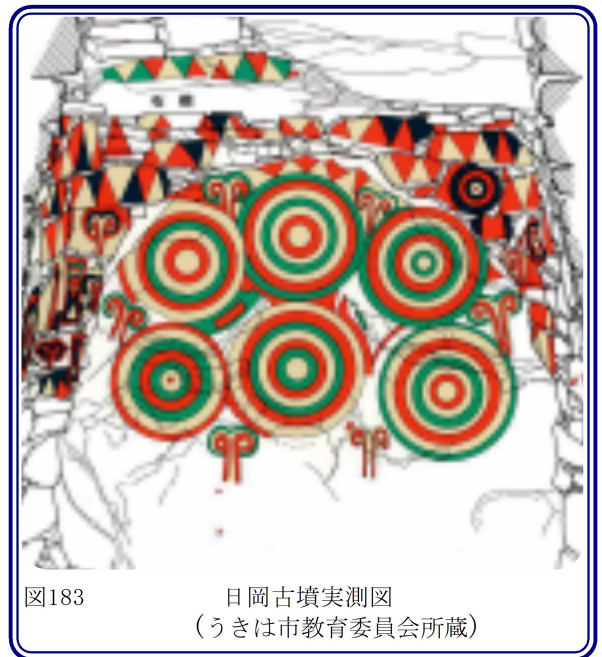


図183

日岡古墳実測図
(うきは市教育委員会蔵)

名学者の論ずるところであり、最も多く存在するのはアイヌを先住民とする北海道である。

アイヌ語の地名を漢字へと置換したことで道外の人々には読みにくい漢字が地図上に多数表記されている。

- ・そこで「チプサン」の名称をアイヌ語辞書“(アイヌ語)対(和語)”に求めて見た。

「チプ」 chip 舟・船

「チュプ」 chup 太陽

「サン」 san 降る・下る

- ・つまり「チプサン」とはアイヌ語で“舟・船、或いは太陽の降下”を意味しているこ



図184

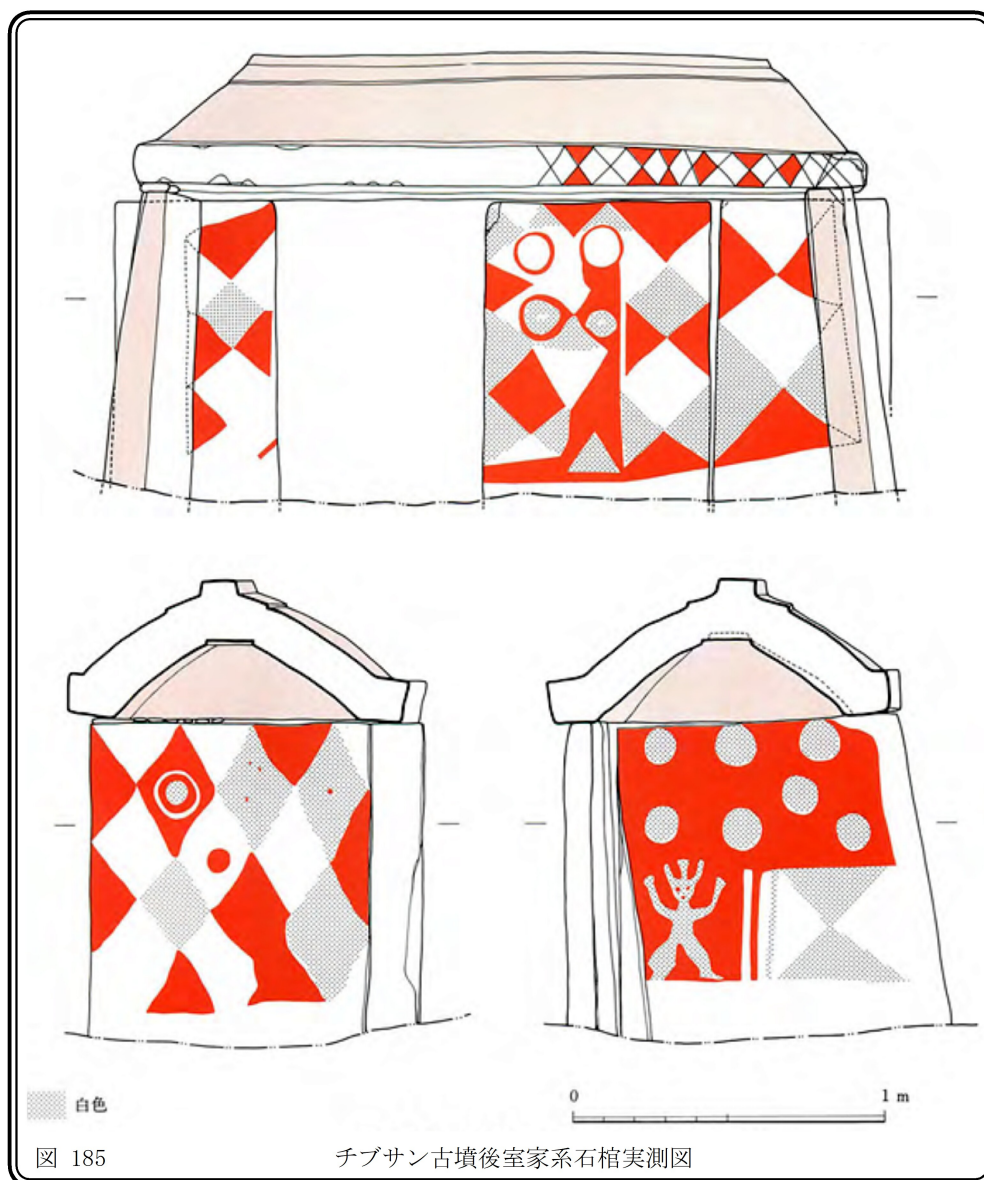
チプサンの図
(熊本県立装飾古墳館 提供)

とになる。

- ・従来の定説である“乳の神様信仰”とは何ら関係性が認められず、その定説の不確実性が明らかとなる。
- ・しかし“舟や太陽が降下する”との解釈もしっかりこない。
- ・的を射た解釈は「輝く7機のシンタ(宇宙船＝UFO)の降下現象」と考えられる。
- ・アイヌの口承文芸には、“天上の人々が船でアイヌモシリに降りてくる”様子が謡われている。
- ・また“アイヌの聖地”がある北海道・平取町では、新造舟としての丸木舟を川に降ろすアイヌの伝統的「舟おろしの儀式」を

「チプサンケ」と呼称する。

- ・2024年で55回を迎えた神聖な儀式である
- 「チプサンケ」の「ケ」とは「場所」を意味し、「チプサンケ」はオキクルミがもたらした多様な文化の中の一つである。
- ・何れにしても「チプサン」なる言葉は「舟や宇宙船の」の降下現象の意味があり、古代の人々は、川や海以上に空間が濃密であったと認識していたと考えられる。
- ・「チプサン」の呼称がUFOとの関連性を示唆するのなら、その裏付けとなる証拠が古墳墳内部に存在しなければならない。
- ・専門家(考古学者)がほぼ注視せず、その解釈を意図的に避けているとも考えられるU



F Oとの関連性を物語る図柄が右側側壁に存在する。

☆右側側壁の図柄の解説

①諸手を高く掲げ、頭に3つの突起がある冠状のものを戴く人物の解説。

- ・ 諸手を掲げるスタイルには「無条件に、積極的に歓喜、歓迎、感謝」するという意思表示の意味がある。
- ・ 冠は一般に王冠(クラウン)を示唆し、それを戴く人物は「キング」である。
- ・ 古代日本の偉大なキングと言えば古事記の神代に登場する大国主(オオクニヌシ=オオナムチ)が想起される。
- ・ 広辞苑第六版の解説によると、大和言葉での「オオ」は尊称、「ムチ」も尊称であると同時に「治める者、束ねる者」を意味している。
- ・ また吉田武彦講演記録(2004. 1. 17ロシア調査旅行報告と共に)を参考にすると、北方民族のオロチ語では、「ナ」は陸、「ム」は水(海)、「チ」は神に該当するという。
- ・ 広辞苑第六版及びオロチ語からは、オオクニヌシ(オオナムチ)が日本の国土のみならず地球全土の統率者であるとの解釈が成り立ってくる。
- ・ オオクニヌシは、記紀や風土記に登場する天之蘿摩船(アマノカガミノフネ)或いは鏡舟(U F O)で降臨した太陽神「スクナヒコナ=オキクルミ」と共に人間国土の建設(人間性の復活)を成し遂げた偉大な功績の人物として知られている。
- ・ そのオオクニヌシの上空には常に叢雲(ムラクモ=雲をたなびかせるシンタ)があったと新潟県出雲崎では伝承され地名の由来にもなった。
- ・ この諸手を掲げた人物は偉大な功績を残した「チプサンキング(オオクニヌシ)」である。

る。

②人物の上空に輝く7個の白色円文の解説。

- ・ 空中に円形の舟や太陽が7つも存在する筈がなく、それらに歓迎の意を表すことなど勿論あろう筈がない。
- ・ 白色円文は、ここではアイヌ語で "chupki (明光・神光)" と謡われた7機のシンタ(太陽円盤=U F O)の描写である。
- ・ ニッセイ基礎研究所(2020・6)の「7」に関する解説によると、『古代より7は特別な数字とされ、「7つの大陸」「7つの海」「完全」「全て」の意味であるという。

③三角文4個を上下左右に組み合わせた正方形の解説。

- ・ 三角形は光や大地の象徴であり、それが4つ組み合わさることで東西南北、即ち四方・四道・四海・四隣・四荒八極などの世界を表している。
- ・ さらに古代九州の正式名である筑紫(チクシ)は、アイヌ語でchikushi「四通発達の中心道路」との意味をもち古代において九州が基点・中心地であったとことを示唆し、その名称は自治体の名称として今日に受け継がれている。

④4つの三角形を組み合わせたその左側の2本のポール状の解説。

- ・ ポールは一般に旗や幟との関係性が非常に深い。



図186 [岐阜県]上宝村(現高山市)出土・御物石器
・ 縄文時代後期～晩期
・ 飛騨民族考古館收藏



図187 [岡山県]長縄手遺跡
・ 土器片・弥生時代中期
・ 岡山県古代吉備文化センター提供

- ・国家の象徴が国旗であり、国際連合憲章(国連憲章)に基づいて承認された国家の集合体である国際連合にも旗としてのエンブレム(紋章)が存在する。
- ・その国際連合旗は、青地に白で5重の同心円文とその中に北極を中心とした正距方位図法の世界地図を描き、平和を象徴する2つのオリーブの枝がその周りを取り囲む。
- ・通常、国旗及び国際連合旗はポールに取り付けて掲揚するが、必要に応じてペイントやシールなどで代用される。
- ・U F O L O G Y 的知見からすると、全世界の古代の遺物には天空(宇宙)とのコンタクトから派生した太陽神崇拜思想(太陽円盤崇拜思想)を起源とする無翼太陽円盤・有翼太陽円盤・太陽の舟・太陽の車輪などに代表される太陽円盤マーク(以降太陽マーク)が無数に存在する。
- ・日本ではU F O の着陸状態(翼を休めた状態)である無翼の太陽マーク(円文・同心円文)が主流を成し、この太陽マークの王権との結びきから古代オリエントではマークの争奪戦が展開されたという。
- ・宇宙とのコンタクトから人間の文化を開花せしめた民族の遺跡(天文や暦との関連性が

指摘される巨石遺構・ストーンサークル・古墳・空撮で確認の大地の特殊文様)や文化的遺物などには太陽マークが多く認められる。

- ・世界各国の大多数の空軍機には国籍標識である円形章(同心円文)が採用されている。
- ・古代も現代も空中を飛翔する物体は、共通の紋章(円文)で表現されるのである。
- ・四つの三角形は、チプサンキングによって太陽王国が世界各地に誕生、統一されたことを示唆する。
- ・四つの三角形の2本のポールの1本は「太陽王国旗」である。
- ・残りの1本は、宇宙側の臨席を賜った宇宙的セレモニーであることから想定すると、地球の宇宙連合への加盟への承認、つまりそれを象徴する「宇宙連合旗」の可能性が指摘される。

以上の事柄を念頭に置きチプサンの装飾を総評すると、『宇宙の援助を得て世界各地に太陽王国を樹立せしめたキング・オブ・キングスたるチプサンキングの偉業に対して慶賀に訪れた宇宙側(7機の太陽円盤)への歓喜と感謝と歓迎をチプサンキングが表している。

そして同時に地球側の太陽王国の統一と宇宙連合への加盟が正式に承認されたとの見方が出来る古代地球史上前例のない偉大な宇宙とのコンタクト壁画』である。

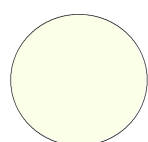
宇宙的使命を担った人物は数字で呼称されることが多く、オキクルミは「6」、釈迦は「8」、イエス・キリストは「9」、チプサンキングは「13」で表される。

メキシコユカタン半島のマヤが伝承する神話を網羅する聖なる書「ポポルブフ」には、船で「13」の国を尋ねるとの記述があり、同オアハカ州タイラパンの遺跡(モンテアルパンⅡ期文化 300 B. C-300 A. C)からは、胸と頭部の帽子に記号と数字で「13」を刻む胡坐像が





古墳に描かれた太陽マーク



チプサン古墳



古畑古墳



珍敷塚古墳



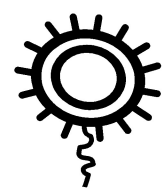
重定古墳



虎塚古墳



長迫古墳



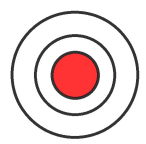
ドライホーク
ユタ州 岩絵



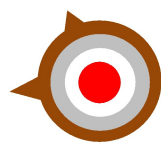
日ノ岡古墳



日ノ岡古墳



千金甲古墳



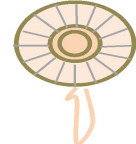
釜尾古墳



釜尾古墳



五郎山古墳



アトラトルロック
ネバダ州

軍用機の国籍マーク



アルゼンチン



アルバニア



イギリス



インド



ウクライナ



エジプト



ガーナ



グアテマラ



ケニア



ジャマイカ



スペイン



トルコ



ナイジェリア



日本



バーレン



バングラデシュ



フランス



南キプロス



マレーシア



ラトビア



イラン



エルサルバドル



タイ王国



レバノン



旧アメリカ合衆国



旧アンゴラ



旧インド



旧オーストラリア



旧中華民国



旧中華民国(台湾)



旧ベネズエラ



旧ポルトガル



旧スーダン



旧アイルランド



旧イギリス

図189 古墳マークに描かれた太陽マーク・軍用機の国籍マーク

出土している。

九州の装飾古墳の壁画には、外国スタイルの

人物像が見受けられ多くの人々がチプサンキングの元を訪れていたと推測される。

その証左が古代の九州と中心地を意味する「チクシ」なるアイヌ語の地名であった。

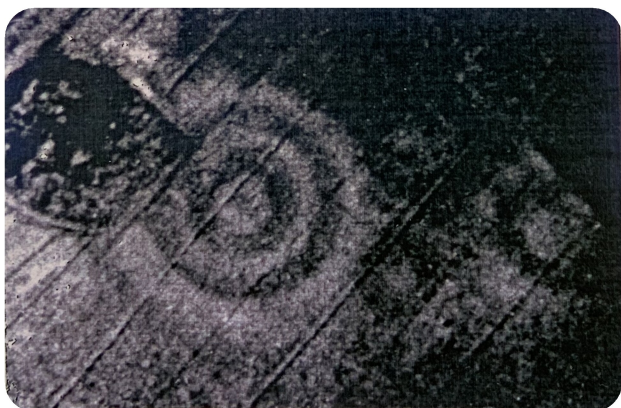


図190 稲荷山古墳航空写真(昭和43年撮影)
(写真提供：埼玉県さきたま史跡の博物館)

大地に刻まれた太陽マーク(ソイルマーク)



埼玉県川越市下小坂で発見されたソイルマーク群



イギリス・ゲラトリーの三重・一重円のソイルマーク

図191 大地に刻まれた太陽マーク(ソイルマーク)

また旧8月1日は、「チプサンキングの戴冠式」が執り行なわれたと解釈されるのであった。

しかしながら、古代ギリシャやローマ帝国に代表されるように武力と物質文明を駆使して他国へ侵攻する王朝制度体である覇権主義的国家或いは独裁主義的国家が当時地球に存在したのも事実である。

彼らは安楽な物質文明に溺れて人間性を喪失、墮落して宇宙とのコンタクトを自ら拒絶した結果、似非コンタクトマン(神官・巫女)などに国家の運命を託し、氏族連合体に代表される太陽王国への武力侵略と奴隷化に邁進して、宇宙へ志向した民族の抹殺と宇宙とのコンタクトの歴史を消し去ったのであった。

太陽マークの宝庫である九州には435基の装飾古墳が点在しているが、その中の212基は熊本県内に存在する。

チプサン古墳に代表される太陽マークを装飾した古墳の大半が県北部を流れる菊池川流域に集中するのは、チプサンキングの偉業により誕生した太陽王国の本拠地がその地に存在したからに他ならない。

☆小田良(おだら)古墳☆〔別名チンカンサン
円墳 宇城市三角町中村小田良 5世紀中頃・
6世紀前後頃〕



イギリス・リトルサーカスの三重・一重円のソイルマーク

THE FLYING SAUCER NEWS 1964/1 VOL. 7 NO. 1より引用



図192 [ペルー]
・土器・紀元前100年～西暦500年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/9040/stirrurup-spout-vessel-with-spiral-designs>



図193 [メキシコ]
・紀元前1200年～紀元前200年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/5888/cylindrical-seal-with-flower-like-motif>



図194 [ペルー]
・土器・紀元前100年～西暦500年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/6281/stirrurup-spout-vessel-with-bird-head-design>

- ・4面の石障(南北1.85m、東西1.9m、礫床までの高さ0.65m)に彫刻と彩色による装飾を施す。
- ・石障北側に4個の円文、奥壁側の東側に3個の円文と2個の靫、南側に3個の円文、西側にも2個の円文を刻む。
- ・円文の直径は17～18cm、中心孔をえぐり沈線(垂下)を円文の上下に彫刻するのが特徴的である。
- ・同古墳は宇土半島の北沿岸部の有明海に面するが、同半島を挟んでその南側は八代海(不知火海)である。
- ・八代海を取り巻くように装飾古墳が多く点在し、それらの古墳にも小田良古墳と類似した装飾文様が多々見受けられる。

※沈線文：竹や貝、木などを使用して主に縄文土器に多く凹んだ線の文様。八代海周辺の古墳では円文などの上下左右に施さ

れた線刻。

以上、アイヌ文様と縄文時代・続縄文時代の土器文様及び装飾古墳との文様などには太陽マークとしての円文、同心円文、渦巻文などが装飾され、その類似性が顕著に認められた。

また数は少ないが蕨手文、三角文なども認められる。

これらの文様の類似性は、日本の先住民(原住民)がアイヌであることのその証左の一つと考えられるのである。

次章では、八代海(不知火海)に発現する“シラヌイ現象”に科学的メスを入れ、八代海を取り巻く特異な文様を刻む装飾古墳と、熊本県での出土数が極めて少ない「銅鏡」について考察する。

☉ ☉☉ ☉ ☉☉ ☉ ☉☉ ☉ ☉☉ ☉ ☉☉ ☉



図195 [ペルー]
・土器・紀元前180年～西暦500年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/90969/cup-with-repeated-spiral-motifs>



図196 [メキシコ]
・紀元前800年～紀元前400年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/120480/roller-seal>

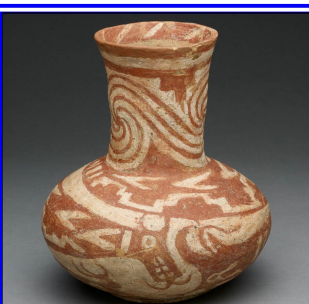


図197 [アメリカ]アーカンソー州・土器・1300年～1500年・シカゴ美術館所蔵
<https://www.artic.edu/artworks/185165/bottle-with-underwater-serpents>



図198 [エクアドル]
・土製印章
・紀元前550年～
・BIZEN中南米美術館所蔵

表7

◎ ◎ ◎ 装 飾 古 墳 ・ 壁 画 古 墳 一 覧 ◎ ◎ ◎

福岡県

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
1	浦山古墳	久留米市上津野町浦山	前方後円	横穴式石室	横口式家形石棺	線刻(赤で染色)	同心円紋・直弧文・鍵手文
2	日輪寺古墳	久留米市京町	前方後円	横穴式石室	石障	浮彫的線刻(赤で彩色)	同心円紋・直弧文・鍵手文
3	下馬場古墳	久留米市草野町吉木	円	横穴式石室	後室・玄門・袖石・前室	彩色(赤・青)	同心円紋・三角文・盾
4	鹿毛塚古墳	久留米市草野町大字草野	円	横穴式石室		彩色(赤・青)	同心円紋・蕨手文
5	前畑古墳	久留米市草野町草野前畑	円	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤)	円文・同心円文
6	薬師下北古墳	久留米市草野町草野薬師下	円	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤)	円文・同心円文
7	薬師下南古墳	久留米市草野町草野薬師下	円	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤)	同心円文・旗と騎馬
8	大慶寺古墳	久留米市田主丸町地徳	円	横穴式石室		彩色(赤・青)	円文・同心円文
9	中原狐塚古墳	久留米市田主丸町地徳	円	横穴式石室	後室・前室・?道	彩色(赤・青)	同心円文・亀甲文?斜十字文?
10	寺徳古墳	久留米市田主丸町益生田	円	横穴式石室	後室・玄門・袖石・前室	彩色(赤・黄・青)	円文・同心円文・三角文
11	益生田古墳	久留米市田主丸町益生田	円	横穴式石室		彩色(赤・青・白)	円文・同心円文
12	清長橋古墳	久留米市田主丸町石垣	円	横穴式石室		彩色(赤・青)	円文・同心円文・馬
13	原古墳	うきは市吉井町富永	円	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	円文・同心円文・人物・船
14	珍敷塚古墳	うきは市吉井町富永	円	横穴式石室	玄室	彩色(赤・青)	靱・蕨手文・人物・船・鳥・ヒキガエル
15	古畑古墳	うきは市吉井町富永	円	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	同心円紋・三角文・人物
16	紋塚古墳	うきは市吉井町富永	円	横穴式石室		彩色(赤・青)	同心円紋
17	富永古墳	うきは市吉井町富永	円	横穴式石室	石室内	彩色(赤・青・白)	円文・同心円文・靱ほか
18	名称不詳	久留米市田主丸町	円	横穴式石室		彩色(赤)	同心円紋 ※(森貞次郎)「装飾古墳」地名表
19	日ノ岡古墳	うきは市吉井町若宮	前方後円	横穴式石室	後室・石棚・羨道	彩色(赤・黄・黄)	円文・同心円文・靱・盾・大刀・馬ほか
20	重定古墳	うきは市浮羽町朝田	前方後円	横穴式石室	後室・玄門・袖石・前室	彩色(赤・緑)	同心円文・蕨手文・靱・柄
21	塚花塚古墳	うきは市浮羽町朝田	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・緑・青)	円文・同心円文・蕨手文・三角文・盾・靱
22	石人山古墳	八女郡広川町	前方後円	横穴式石室	横口式家形 石棺の蓋石	浮彫的線刻	同心円紋・直弧文
23	強化谷古墳	八女郡広川町	円	横穴式石室	石屋形	彩色(赤・緑)	円文・同心円文・双脚輪状文・三角連続文・靱
24	乗場古墳	八女市吉田乗場	前方後円	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤・青・黄)	円文・同心円文・靱
25	丸山塚古墳	八女市宅間田	円	横穴式石室		彩色(赤・黒・緑)	蕨手連続文・三角文・対角線文
26	倉永古墳	大牟田市倉永甘木山	円	横穴式石室	不明	線刻(赤で染色)	同心円文・船?・人物?
27	萩ノ尾古墳	大牟田市東萩尾町	円	横穴式石室	後室	彩色(赤)	円文・同心円文・三角文・盾・船
28	狐塚古墳	朝倉市大字入地	円	横穴式石室	後室・玄門・袖石・前室	線刻	円文・同心円文・船・馬
29	宮地嶽古墳	朝倉市宮野	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・緑)	円文
30	砥上観音塚古墳	朝倉郡筑前町砥上	円	横穴式石室	後室	彩色(赤)	同心円文・船・騎馬人物
31	仙道古墳	朝倉郡筑前町久光	円	横穴式石室	玄室	彩色(赤・緑)	同心円文・円文・三角文
32	吉武K7号墳	福岡市早良区金武	円	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	の字形渦文・小人物
33	権現塚古墳	筑紫郡那珂川町	円	横穴式石室		彩色(赤)	円文ほか
34	王塚古墳	嘉穂郡桂川町	前方後円	横穴式石室	後室・石屋形・前室	彩色(赤・黒・白・緑・黄)	三角文・同心円文・双脚輪状文・靱・盾・大刀・弓・蕨手門・三角文
35	桜京古墳	宗像市牟田尻	前方後円	横穴式石室	石屋形	彩色(赤・緑)	三角連続文・対角線文
36	瀬戸横穴墓14号	中間市垣生字瀬戸口	—	横穴	玄室	線刻彩色(赤)	船・騎馬人物・鳥・円文
37	百留横穴群1号	築上郡上毛町	—	横穴	外壁	彩色(黄・赤)	入口周辺緑どり・円文

佐賀県

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
1	田代太田古墳	鳥栖市田代本町太田	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・黄・緑)	同心・円文・三角文・蕨手文・人物・騎馬・船・盾ほか
2	伊勢塚古墳	神崎郡神崎町志波屋	前方後円	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	円文
3	西隅古墳	佐賀市金立町	円	横穴式石室	横口式家形石棺前蓋	線刻彩色(赤)	円文・三角連続文
4	西原古墳	佐賀市久保泉	前方後円	横穴式石室	横口式家形石棺	線刻彩色(赤・緑)	同心円文・三角文・方形文
5	天山横穴	多久市東多久町納所	—	横穴		線刻	円文・船

長崎県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	山の神5号墳	杵岐市芦辺町国分字本村	円	横穴式石室	玄室	線刻彩色(赤)	同心円文

大分県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	法恩寺山古墳3号墳	日田市刃連町字法恩寺山	円	横穴式石室	後室・玄室	彩色(赤)	円文・同心円文・騎馬人物・飛鳥ほか
2	穴観音古墳	日田市内河町字倉園	円	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤・緑)	円文・同心円文・三角文・人・船ほか
3	ガランドヤ1号墳	日田市石井町大字西園	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・緑)	円文・四神・船
4	ガランドヤ2号墳	日田市石井町大字西園	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・緑)	円文・騎射人物
5	鬼塚古墳	玖珠郡玖珠町小田	円	横穴式石室	後室	彩色(赤・青・白)	同心円文
6	千代丸古墳	大分市大字宮苑字千代丸	円	横穴式石室	石棚	線刻(彩色不明)	複線三角連続文・人・動物
7	四日市横穴墓群 加賀山9号	宇佐市四日市町	—	横穴		彩色(赤・黒)	同心円文・忍冬文
8	四日市横穴墓群 一鬼手1号横穴	宇佐市四日市町字一鬼手	—	横穴	羨門	彩色(赤)	同心円文
9	穴瀬2号横穴	豊後高田市美和字穴瀬	—	横穴	羨門	彩色(赤)	円文・同心円文
10	水雲横穴	宇佐市院内町上副	—	横穴	外壁	彩色(赤)	同心円文
11	穴瀬横7号横穴	豊後高田市美和字穴瀬	—	横穴	羨門	彩色(赤)	同心円文
12	穴瀬横16号横穴	豊後高田市美和字穴瀬	—	横穴	羨門	彩色(赤)	円文
13	四日市横穴墓群 加賀山10号	宇佐市四日市町大字加賀山	—	横穴	羨門	彩色(赤)	円文・同心円文
14	四日市横穴墓群 加賀山16号	宇佐市四日市町大字加賀山	—	横穴	羨門	彩色(赤)	円文・同心円文

熊本県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	四ツ山古墳	荒尾市大島笹原・笠原	円	横穴式石室	後室	線刻	円文
2	今村岩下の横穴群 Ⅰ-1号	玉名郡南関町今岩の下	—	横穴	石屋形・飾り縁	線刻彩色(赤)彩色(赤)	円文・連続三角文
3	今村岩の下横穴群 Ⅱ-3号	玉名郡南関町今岩の下	—	横穴	飾り縁	彩色(赤)	円文・(珠文)?
4	今村岩の下横穴群 Ⅱ-7号	玉名郡南関町今岩の下	—	横穴	羨門外壁	彩色(赤)	円文?
5	今村岩の下横穴群 Ⅲ-2号	玉名郡南関町今岩の下	—	横穴	石屋形	線刻	連続三角文
6	石貫穴観音1号横穴	玉名市石貫安世寺	—	横穴	飾り縁	彩色(赤・白)・線刻	珠文・盾
7	石貫穴観音2号横穴	玉名市石貫安世寺	—	横穴	屍床仕切り・入口庇・ 飾り縁	彩色(赤・白)・浮彫彩色 (赤)・線刻・浮彫・線	円文・連続三角文・舟形
8	石貫ナギノ6号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	飾り縁	線刻彩色(赤)	三重円文・珠文・三角文
9	石貫ナギノ8号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	玄室・石屋形・屍床仕切 り・羨門外壁・飾り縁	線刻彩色(赤)・ 線刻浮彫	二重円文・菱形文・連続弓矢・線刻大刀 ・連続菱形文
10	石貫ナギノ12号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	石屋形	浮彫・線刻	大刀・連続X文・連続三角文
11	石貫ナギノ16号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	羨門外壁	彩色(赤)	円文?
12	石貫ナギノ17号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	玄室・屍床仕切り	浮彫・線刻	舟形・連続三角文・円文
13	石貫ナギノ19号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	飾り縁	線刻	線刻彩色(赤)
14	石貫ナギノ28号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	羨門外壁・飾り縁	彩色(赤)	珠文
15	石貫ナギノ29号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	羨門外壁	彩色(赤)	円文
16	石貫ナギノ30号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	石屋形・屍床仕切り	線刻・浮彫	連続三角文・舟形
17	石貫ナギノ37号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	飾り縁	線刻彩色(赤)	線刻彩色(赤)
18	石貫ナギノ39号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	石屋形・飾り縁	線刻	連続三角文
19	石貫ナギノ40号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	石屋形	線刻	三角連続文
20	石貫ナギノ43号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	羨門外面・飾り縁	彩色(赤)	円文(環状)・L字文
21	石貫ナギノ45号横穴	玉名市石貫ナギノ	—	横穴	屍床仕切り・飾り縁	彩色(赤)・浮彫	同心円文・山形文・舟形
22	石貫古城1-26号横穴	玉名市大字石貫字城原	—	横穴	玄室	線刻	三角文
23	原7号横穴	玉名市雷尾原	—	横穴	玄室・飾り縁	彩色(赤)・線刻	連続三角文・円文

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
24	原12号横穴	玉名市富尾原	－	横穴	石屋形	線刻	連続三角文
25	原13号横穴	玉名市富尾原	－	横穴	玄室・石屋形	線刻	連続三角文・円文
26	大坊古墳	玉名市玉名大坊	前方後円？	横穴式石室	石屋形・前門袖石第1・2・扉石	彩色(赤・青)	連続三角文・円文
27	永安寺東古墳	玉名市永安寺	円	横穴式石室	石屋形・羨門・羨道	染色彩色(赤)	連続三角文・円文・船・三角文・馬
28	永安寺西古墳	玉名市永安寺	円	横穴式石室	玄室	線刻彩色(赤)	円文
29	馬出古墳	玉名市玉名馬出	円	横穴式石室	石屋形	線刻	円文・連続三角文
30	横島6号横穴	玉名市青木横島	－	横穴	飾り縁	彩色(赤)	円文？
31	横島10号横穴	玉名市青木横島	－	横穴	飾り縁	彩色(赤・白)	二重円文・帯状文
32	城迫間4号横穴	玉名市溝ノ上城迫間	－	横穴	石屋形	線刻	三角文・斜線文
33	田崎1号横穴	玉名市田崎檜山	－	横穴	飾り縁	彩色(赤・白)	二重円文・珠文
34	塚坊主古墳	玉名郡和水町江田	前方後円	横穴式石室	石屋形	彩色(赤)	連続三角文
35	長力横穴群1号	玉名市菊水町瀬川長力	－	横穴	飾り縁	線刻彩色(赤)	円文・三角文・連続三角文
36	小原浦田5号横穴	山鹿市大字小原字浦田	－	横穴	羨道外壁	彩色(赤)	円文(?)
37	小原大塚51号横穴	山鹿市大字小原字大塚	－	横穴	羨道外壁	彩色(赤・白)	二重円文
38	長岩91号横穴	山鹿市志々岐字長岩	－	横穴	玄室・屍床仕切り・外壁	浮彫・線刻彩色(赤)	連続三角文・彫りかけの文様
39	岩原1-15号横穴	山鹿市鹿央町岩原	－	横穴	玄室・屍床仕切り	線刻彩色(赤)	連続三角文
40	岩原V-6-6号横穴	山鹿市鹿央町岩原	－	横穴	前室	線刻	円文・靱
41	桜の上1-1号横穴	山鹿市鹿央町岩原大野原	－	横穴	後室・屍床仕切り・前室	線刻彩色(赤・白)	連続三角文・十字文・靱？
42	臼塚古墳	山鹿市石荒瀬・石臼塚	円	横穴式石室	玄室・石屋形	彩色(赤・白)・線刻彩色(赤・白・青)・線刻	円文・三角文・連続三角文・人物
43	鍋田6号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室	線刻	連続三角文
44	鍋田27号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室・外壁	浮彫彩色(赤)・浮彫・線刻	連続三角文・人物・剣・靱・鞘・刀子・弓矢・盾・馬
45	鍋田49号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室	線刻	円文・連続三角文・靱
46	鍋田50号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室	線刻	連続三角文
47	鍋田50号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室・屍床仕切り	線刻彩色(赤)	連続三角文
48	鍋田53号横穴	山鹿市鍋田東・荒瀬	－	横穴	玄室	浮彫・線刻	連続三角文・靱
49	チブサン古墳	山鹿市大字城字西福寺	前方後円	横穴式石室	家形石棺	彩色(赤・白)線刻彩色(赤)	円文・三角文・菱形文・X文・人物
50	オブサン古墳	山鹿市城字西福寺	円	横穴式石室	後室・玄門袖石	彩色(赤)線刻	連続三角文・斜格子目文？不明
51	付城67号横穴	山鹿市城付城・小原	－	横穴	石屋形・屍床仕切り	線刻彩色(赤)	連続三角文
52	馬塚古墳	山鹿市鬼天神	円	横穴式石室	後室・石屋形・前室	彩色(赤・白・青)線刻	連続三角文
53	横山古墳	熊本市植木町大字有泉	前方後円	横穴式石室	石屋形	彩色(赤・白・青)	双脚輪状文・連続三角文
54	石立石棺	合志市合生石立	不明	不明	家形石棺蓋石	線刻	連続三角文
55	袈裟尾高塚古墳	菊池市大字袈裟尾	円	横穴式石室	石屋形	線刻	連続三角文・靱
56	釜尾古墳	熊本市釜尾町字同免	円	横穴式石室	後室・石屋形	彩色(赤・白・青)	同心円文・三角文・連続三角文・双脚輪状文
57	富ノ尾古墳1号墳	熊本市池田3丁目	円	横穴式石室	羨道	彩色(赤)	円文・三角文
58	稲荷山古墳	熊本市清水町打越	円	横穴式石室	後室・石屋形	彩色(赤・青・白)	円文・同心円文・三角文・連続三角文など
59	千金甲1号墳	熊本市小島下町	円	横穴式石室	石障	浮彫彩色(赤・青・黄)	同心円文・対角線文・靱・船
60	千金甲3号墳	熊本市小島下町	円	横穴式石室	石屋形	線刻彩色(赤・緑)線刻	同心円文・大刀・靱・弓・船
61	井寺古墳	上益城郡嘉島町大字井寺	円	前方後円	石障	線刻彩色(赤・白・青・緑)	直弧文・車輪文・梯子文・柱状文・鍵手文
62	今城大塚古墳	上益城郡御船町滝川	前方後円	前方後円	玄室	彩色(赤)	同心円文・盾？
63	坂本古墳	熊本市城南町大字板野	円	横穴式石室	石障	浮彫	同心円文
64	勘九郎山古墳	熊本市城南町大字沈目	前方後円	横穴式石室	玄室	彩色(赤・青・白)	円文
65	御領横穴	熊本市城南町大字東阿高	－	横穴	羨門上部	線刻	円文
66	中郡古墳	下益城郡美里町中郡	不明	家形石棺	石棺内壁	線刻彩色(赤・黄)	円文
67	宇賀岳古墳	宇城市松橋町松山	円	横穴式石室	玄室	線刻彩色(赤・緑)	円文・連続三角文・菱形文・梯子形文
68	潤野古墳	宇土市立岡町字潤野	円？	家形石棺	石棺内壁	線刻	円文・連続三角文
69	晚免古墳	宇土市立岡町字晚免	円	家形石棺	石棺棺蓋・内壁	玄室	円文・車輪文
70	東畑古墳	宇土市恵塚町東畑	円	横穴式石室	玄室	線刻	連続三角文ほか

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
71	鴨籠古墳	宇城市不知火町長崎坊ノ平	円	竪穴式石室	家形石棺棺蓋	線刻彩色(赤・青)	直弧文・円文・梯子形文
72	国越古墳	宇城市不知火町長崎国越	前方後円	横穴式石室	家形石棺	線刻彩色(赤・青・緑)	直弧文・梯子形文・方形文・連続三角文・鍵手文
73	桂原1号墳	宇城市不知火町長崎白玉	円	横穴式石室	玄室・石棚・羨道	彩色(白・黒)線刻	同心円文・船
74	小田良古墳	宇城市三角町	不明	横穴式石室	石障	浮彫	同心円文・盾・靱
75	長砂連古墳	上天草市大矢野町	円?	横穴式石室	石障	浮彫	直弧文・円文・梯子形文
76	広浦古墳	上天草市大矢野町大字千東	不明	箱式石棺	石棺材	浮彫	円文・半円文・大刀・刀子など
77	大戸鼻北古墳	上天草市松島町阿村御手水	円	横穴式石室	石障	線刻	円文
78	大戸鼻南古墳	上天草市松島町阿村御手水	円?	箱式石棺	石棺内壁	線刻	同心円文(間に連続三角文)
79	大戸鼻石棺	上天草市松島町阿村小葉山	不明	箱式石棺	石棺内壁	彩色(赤)	円文
80	竜北高塚古墳	八代郡氷川町大字高塚	円	組合式家形石棺	石棺内面	浮彫・陰刻	円文・方形区画・同心円文・直弧文
81	門前2号墳	八代市岡岡谷川門前	不明	箱式石棺	石棺内面	浮彫	同心円文
82	大鼠蔵尾張宮古墳	八代市鼠蔵町大鼠蔵	円	横穴式石室	石障	線刻	円文
83	大鼠蔵東麓1号墳	八代市鼠蔵町大鼠蔵	不明	箱式石棺	石棺石材	線刻	二重円文・靱・弓・大刀・短甲
84	大鼠蔵北麓2号墳	八代市鼠蔵町大鼠蔵	不明	箱式石棺	石棺石材	線刻	二重円文
85	大鼠蔵西麓2号墳	八代市鼠蔵町大鼠蔵	不明	横穴式石室	玄室	線刻	二重円文
86	小鼠蔵1号墳	八代市鼠蔵町小鼠蔵	円	竪穴式石室	玄室	線刻	円文
87	小鼠蔵3号墳	八代市鼠蔵町小鼠蔵	不明	箱式石棺	石棺内壁	線刻	円文
88	五反田古墳	八代市敷川内町字五反田	不明	横穴式石室	石障	線刻	円文
89	長迫古墳	八代市日奈久大坪町長迫	不明	箱式石棺	石棺内面	線刻	同心円文(連続三角文をめぐらすものもある) ※石障の可能性もある
90	田川内1号墳	八代市日奈久新田町	円?	横穴式石室	石障	線刻	二重円文
91	田川内2号墳	八代市日奈久新田町	不明	箱式石棺	石棺石材	線刻	二重円文・三角文
92	田川内3号墳	八代市日奈久新田町	不明	不明	石棺石材?	線刻	円文・二重円文
93	竹ノ内古墳	八代市日奈久竹ノ内町	不明	箱式石棺?	石棺石材	線刻	円文・弧線
94	大村7号横穴	人吉市城本町城本・島岡	－	横穴	外壁	浮彫彩色(赤)	三角文・連続三角文・靱・弓・馬・馬鐙?
95	大村11号横穴	人吉市城本町城本・島岡	－	横穴	外壁	浮彫彩色(赤)浮彫	円文・刀子・靱・柄?
96	大村13号横穴	人吉市城本町城本・島岡	－	横穴	外壁	浮彫彩色(赤)・線刻彩色(赤)・線刻	円文・盾・大刀
97	大村14号横穴	人吉市城本町城本・島岡	－	横穴	外壁	浮彫彩色(赤)・線刻	靱・車輪文・盾
98	小原4号横穴	球磨郡相良村柳瀬井沢小原	－	横穴	外壁	線刻彩色(赤)	円文
99	長岩49号横穴	山鹿市志々岐字長岩	－	横穴	飾り縁	線刻彩色(赤)	連続三角文
##	長岩55号横穴	山鹿市志々岐字長岩	－	横穴	玄室・屍床仕切り	線刻彩色(赤)・浮彫・線刻	連続三角文・四角錘台形突起
##	長岩56号横穴	山鹿市志々岐字長岩	－	横穴	玄室・屍床仕切り	浮彫・線刻	連続三角文・四角錘台形突起

宮崎県

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
1	土器田東1号横穴	宮崎市佐土原町下那珂字土器田	－	横穴	玄室	線刻	連続三角文・馬?・魚?・鳥?
2	上穂北33号横穴	西都市上穂北字上江	－	横穴	玄室	線刻	円文?

島根県

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
1	丹花庵古墳	松江市古會志町字丹花庵	円	長持形石棺	石棺蓋	彫刻	連続三角文
2	十王免横穴群2号横穴	松江市矢田町十王免	－	横穴	玄室	線刻?	三角形・木の葉・弓・矢

鳥取県

番号	古 墳 名	所 在 地	墳 丘	埋 葬 施 設	図 文 の 場 所	設 文 方 法	図 文 の 種 類
1	鷺山古墳	岩美郡国府町町屋	円	横穴式石室	玄室	線刻	魚・船・鳥・刀・弓・斜格子文・同心円文・平行線
2	梶山古墳	岩美郡国府町岡益	円	横穴式石室	後室	彩色(赤黄色?)	三角文・船・同心円文・曲線文・魚
3	空山2号墳	鳥取市香取	円	横穴式石室	玄室・羨道	線刻	三角文・綾杉文・鳥・矢
4	福庭古墳	倉吉市福庭	円	横穴式石室	玄室・(後室?)	彩色(赤)	三角文?
5	土下229号墳	東伯郡北条町土下	円	横穴式石室	羨道	線刻	魚・木の葉文?・車輪状文・放射状文

岡山県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	千足古墳	岡山市北区新庄下	円	横穴式石室	石室内仕切り石	彫刻	直弧文・鍵手文
2	丸山古墳	備前市畠田	円	竖穴式石室	石棺蓋	彫刻	円文・家屋文

大阪府

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	安福寺境内石棺	柏原市玉手町	前方後円？		割竹形石棺	線刻	直弧文
2	高井田2-3号横穴	柏原市高井田	－	横穴	玄室・玄門	線刻	騎馬人物・鳥・格子状文・渦巻文？
3	高井田2-23号横穴	柏原市高井田	－	横穴	玄室・羨道	線刻	騎馬人物・人物・渦文・幡
4	高井田1-12号横穴	柏原市高井田	－	横穴	玄室	線刻	円文・魚
5	高井田3-8号横穴	柏原市高井田	－	横穴	玄室	線刻	人物・円心円文

福井県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	小山谷古墳	福井市小山谷町	不明	舟形石棺	石棺蓋	浮彫	円文
2	西谷尾越(尾佐越)古墳	福井市足羽山付近	不明	舟形石棺	石棺蓋	浮彫	同心円文・菱形文
3	足羽山山頂古墳	福井市足羽上町	円	竖穴式石室？	石棺身表面	浮彫	変形直弧文

神奈川県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	洗馬ヶ谷4号横穴	鎌倉市関谷	－	横穴	玄室	線刻	三角文・人物
2	熊ヶ谷7号横穴	横浜市青葉区奈良	－	横穴	玄室	線刻	鳥・同心円文・斜格子文

茨城県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	虎塚古墳	ひたちなか市中根	前方後円	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	連続三角文・同心円文・刀・靱・飾玉・靱・矛ほか
2	船玉古墳	筑西市船玉	方	横穴式石室	後室・前室	彩色(赤・白)	靱・靱・鏃・家・船・円文
3	太子古墳	かすみがうら市安食	前方後円？	横穴式石室	玄室	彩色(赤)	円文・珠文
4	かんぶり穴2号横穴	日立市川尻町十王前	－	横穴	玄室	線刻彩色(赤・黒)	連続三角文・格子状文
5	かんぶり穴11号横穴	日立市川尻町十王前	－	横穴	玄室	線刻彩色(赤・黒・白)	連続三角文・盾
6	かんぶり穴14号横穴	日立市川尻十王前	－	横穴	玄室	線刻彩色(赤)	連続三角文
7	花園3号墳	桜川市東桜川	方	横穴式石室	玄室	彩色(赤・黒・白)	靱・槍・大刀・船・X字文・円文・珠文ほか

福島県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	泉崎4号横穴	西白河郡泉崎村大字泉崎	－	横穴	玄室	彩色(赤)	人物・騎馬像・渦文・珠文
2	清戸迫76号横穴	双葉郡双葉町大山新山	－	横穴	玄室	彩色(赤)	朱文・渦巻文・人物・馬・鹿・犬
3	羽山1号横穴	南相馬市原町区中太田天狗田	－	横穴	玄室	彩色(赤・白)	朱文・渦巻文・人物・馬・鹿
4	中田1号横穴	いわき市平沼ノ内	－	横穴	玄室	彩色(赤・白)	三角連続文・三角文
5	館山6号横穴	いわき市平沼内	－	横穴	玄室	線刻	渦巻文・馬
6	岩井伯4号横穴	双葉郡双葉町鴻草	－	横穴	玄室	線刻	三角連続文
7	福岡横穴	南相馬市小高区福岡	－	横穴	不明	彩色(赤)	渦巻文・鹿？

宮城県

番号	古墳名	所在地	墳丘	埋葬施設	図文の場所	設文方法	図文の種類
1	山畑10号横穴	大崎市三本木蟻ヶ袋山畑	－	横穴	玄室	彩色(赤)	珠文・同心円文
2	山畑15号横穴	大崎市三本木蟻ヶ袋山畑	－	横穴	玄室	彩色(赤)	家？表現・同心円文・格子状文
3	矢本28号横穴	東松島市矢本上沢目	－	横穴	玄室	線刻	同心円文
4	愛宕山C地区1号横穴	仙台市太白区向山	－	横穴	玄室	彩色(赤)	円文・十字文・朱線